

学校法人 芝浦工業大学 概要 2018

事業報告書 2017

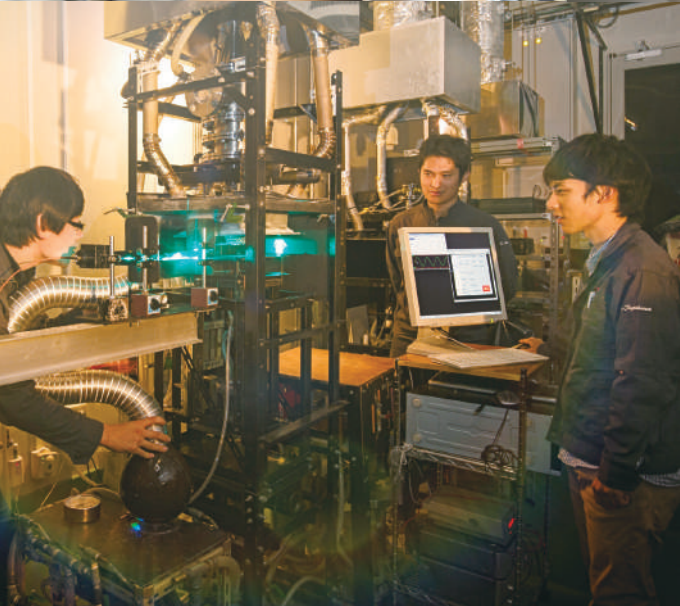
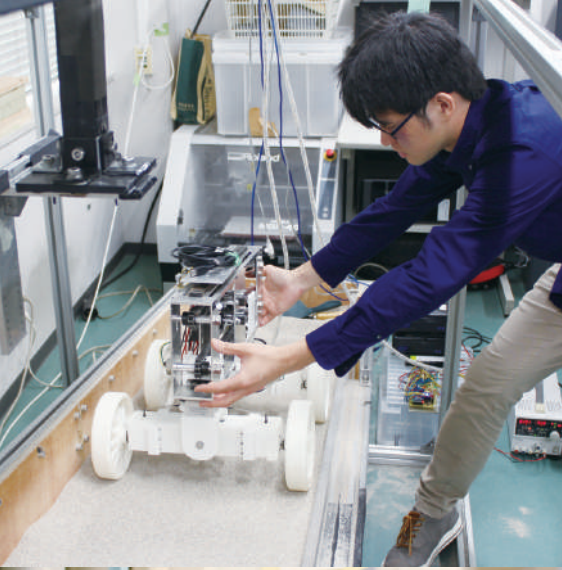
INCORPORATED EDUCATIONAL INSTITUTION GUIDE





SHIBAURA
INSTITUTE
OF
TECHNOLOGY





理事長あいさつ

理工系私学のトップを目指して

芝浦工業大学の源流は、創立者有元史郎が、1927（昭和2）年に開設した東京高等工商学校です。1949（昭和24）年には学制改革により芝浦工業大学を設置しました。法人の設置校には幾多の変遷があり歴史を刻んで参りましたが、現在は大学（4学部16学科）、大学院理工学研究科（修士課程、博士（後期）課程）、専門職大学院工学マネジメント研究科に加え、東京都と千葉県に中学高等学校を擁して1万人を超える学生・生徒諸君が学んでいます。

有元史郎が建学の理念として掲げたものは、「実用的な技術と知識を併せ持って工学一途、工業立国技術立国を担う技術者の育成」と「自立自学、質実勤勉しかも高い倫理観と豊かな見識を備えた優れた人間形成」を目指したものでした。

その実現の支えとなってきたのが「現代社会の諸相に学び、人類の福祉、社会に貢献する技術者の育成」を旨とする本学の実学教育であり、教職員一丸となり一貫して有為な人材の育成に邁進してきました。その結果、本学の卒業生は堅実に仕事ができる、仕事に強い技術者として高い評価を受け、我が国の技術・工業の発展に大きく貢献して参りました。

昨年、本学は創立90周年を迎えました。この1年間では新設建築学部が豊洲キャンパスに第1期生を迎え、附属中学高等学校が新豊洲にてスタートを切ったほか、周年式典および祝賀会においては国内外の多くの方々に本学の歩みを盛大にご祝福いただきました。また、今や本学の特色であるSGU事業での中間評価ではA評価を獲得、大学入試における志願者数でも本学史上最高を記録し、社会から非常に評価された年となりました。

本学は創立100周年となる2027年に名実ともに“日本の理工系私学のトップ”、また“アジア工科系大学トップ10”となる目標を掲げております。様々な分野でグローバル化や技術の高度化が進む現代社会において、社会は本学をどのような理由で求め評価しているのか、建学の原点に立ち返り、さらなる教育の質向上を目指し教職学協働で新たな挑戦に取り組んで参ります。

「理工系を目指すなら芝浦工大」「学生採用なら芝浦工大」と皆様からご評価いただき、自信を持ってお薦めいただける理工系私学のトップランナーを目指し努力して参ります。

今後の芝浦工業大学にご注目いただき、ますますのご支援ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



学校法人 芝浦工業大学 理事長

五十嵐 久也

学校法人 芝浦工業大学 沿革

1910 1920 1930 1940 1950 1960

1927 ▶ 昭和2年
東京府在原郡大森町に東京高等工商学校設立（創立者 有元史郎）。その後、芝区（現港区）芝浦町に移転



東京高等工商学校 建築工学科 1期生授業風景（1929年）



1931年頃 電気工学科 電気実験

1950 ▶ 昭和25年
芝浦工業短期大学を設置（その後、1983（昭和58）年に廃止）

1951 ▶ 昭和26年
学校法人芝浦学園に組織変更

1953 ▶ 昭和28年
学校法人鉄道育英会を吸収合併。東京育英高等学校（現芝浦工業大学附属高等学校）の経営を継承

1962 ▶ 昭和37年
学校法人芝浦工業大学と名称変更

1963 ▶ 昭和38年
大学院工学研究科修士課程を開設、電気工学専攻（現電気電子情報工学専攻）、金属工学専攻（現材料工学専攻）、工業化学専攻（現応用化学専攻）を開設

1966 ▶ 昭和41年
埼玉県大宮市（現さいたま市）に大宮キャンパス竣工



1970年代後半 芝浦校舎正面

1943 ▶ 昭和18年
財団法人東京高等工学校を設立（3月）
財団法人芝浦学園と名称変更（10月）

1949 ▶ 昭和24年
芝浦工業大学を設置、工学部機械工学科、土木工学科を開設

1962 ▶ 昭和37年
学校法人芝浦工業大学と名称変更

1980 ▶ 昭和55年
芝浦工業大学柏高等学校設置

1982 ▶ 昭和57年
芝浦工業大学高等学校を東京都板橋区に移転し、同時に中学校を設置

建学の精神

社会に学び、
社会に貢献する技術者の育成

創立者 有元 史郎 (1896—1938)



芝浦工業大学の源は、1927(昭和2)年、創立者有元史郎が創設した東京高等工商学校です。有元史郎が唱えたのは「現代文化の諸相を教材とし、社会的活動の意義を体得する教育」でした。この実学主義の教育により、実用的な知識と技術を併せ持ち技術立国を担う技術者、さらに高い倫理観と豊かな見識を備えた優れた技術者の育成に取り組み、社会の進歩発展に貢献してきました。これからも芝浦工業大学は、日本だけでなく海外との交流を通じて広く世界に学び、国際社会に貢献する大学としてグローバルな教育・研究力を発揮し、社会の期待に応えていきます。

有元史郎は、1923(大正12)年、苦学の末に東京帝国大学(現東京大学)工学部機械工学科を卒業。引き続き同大学経済学部に入學して経済学を学びました。向学心が強く、工学、経済学のほかにも、法学、文学、商学を修め、合わせて5つの学士号を取得しました。弱冠30歳、東京帝国大学の大学院生のときに東京高等工商学校を創立し、芝浦工業大学の礎を築きました。

INDEX

学校法人 芝浦工業大学	理事長あいさつ、沿革	3
	建学の精神	4
	法人概要	5
	組織図	6
	TOPICS	7
	・グローバル化、教育研究改革の取り組み	
	・附属中高の強力なSTEAM教育の推進	
	・柏中高、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に再指定	
	キャンパス・施設	9
芝浦工業大学	学長あいさつ	11
	Centennial SIT Action、大学認証評価	12
	学部・大学院	13
	国際交流	15
	男女共同参画	17
	研究・技術開発	18
	研究・開発事例	19
	キャリア支援	21
	学生支援	22
	奨学金	22
	教育改善活動	23
	FD・SD活動	23
	クラブ・サークル活動	24
	学生プロジェクト	24
	生涯学習の取り組み	25
	地域連携の取り組み	25
	卒業生支援	26
	広報活動	26
芝浦工業大学 附属中学 高等学校	校長あいさつ	27
	教育の特色	27
	生徒の活動・活躍	28
	入試結果	28
	進路状況	28
芝浦工業大学 柏中学 高等学校	校長あいさつ	29
	教育の特色	29
	生徒の活動・活躍	30
	入試結果	30
	進路状況	30

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1991 ▶ 平成3年
システム工学部を開設、3学科を開設

1995 ▶ 平成7年
大学院工学研究科博士(後期)課程、地域環境システム専攻、機能制御システム専攻を開設

1997 ▶ 平成9年
先端工学研究機構を設置

1999 ▶ 平成11年
芝浦工業大学柏中学校を設置

2003 ▶ 平成15年
大学院工学マネジメント研究科(専門職大学院)を開設

2006 ▶ 平成18年
東京都江東区に豊洲キャンパス開校
芝浦キャンパスは取り壊し、再開発計画に入る

2008 ▶ 平成20年
システム工学部に生命科学科開設
工学部二部を廃止

2009 ▶ 平成21年
東京都港区に芝浦キャンパスを開校。デザイン工学部デザイン工学科を開設。システム工学部をシステム理工学部に変更し、併せて数理科学科開設

2011 ▶ 平成23年
大学院工学研究科を理工学研究科に名称変更し、システム理工学専攻を開設

2013 ▶ 平成25年
大宮キャンパスに国際学生寮を開設

2014 ▶ 平成26年
文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業に採択

2015 ▶ 平成27年
芝浦工業大学柏中学高等学校第3グラウンドを開設

2016 ▶ 平成28年
さいたま市見沼区に東大宮学生寮を開設
大宮キャンパス開校50周年
大宮キャンパスに正門を設置

2017 ▶ 平成29年
デザイン工学部デザイン工学科を再編
大学院理工学研究科に国際理工学専攻を設置
豊洲キャンパスに製図棟「アーキテクチャプラザ」を開設
大宮キャンパス総合グラウンドを開設
建築学部建築学科を開設
芝浦工業大学中学高等学校を江東区豊洲に移転し、新校舎を開校
併せて芝浦工業大学附属中学高等学校に名称変更

概要

(2018年5月1日現在)

法人概要

芝浦工業大学

学長 村上 雅人

工学部

学部長 山田 純

- 機械工学科
- 材料工学科
- 電気工学科
- 情報通信工学科
- 土木工学科
- 建築工学科
- 機械機能工学科
- 応用化学科
- 電子工学科
- 情報工学科
- 建築学科

システム理工学部

学部長 渡部 英二

- 電子情報システム学科
- 機械制御システム学科
- 環境システム学科
- 生命科学科
- 数理科学科

デザイン工学部

学部長 古屋 繁

- デザイン工学科

建築学部

学部長 堀越 英嗣

- 建築学科

※これまでの「工学部建築学科」「工学部建築工学科」「デザイン工学部デザイン工学科(建築・空間デザイン領域)」を統合し「建築学部」を開設しました。
 なお、2016(平成28)年度以前の入学生については、入学時の学部・学科として在籍しています。

芝浦キャンパス

〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14
 Tel:03-6722-2600(代表)
 JR山手線・京浜東北線「田町駅」より徒歩3分
 都営地下鉄三田線・浅草線「三田駅」より徒歩5分

豊洲キャンパス

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
 Tel:03-5859-7340(代表)
 東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分
 JR京葉線「越中島駅」より徒歩15分

大宮キャンパス

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307
 Tel:048-683-2020(代表)
 JR宇都宮線(東北本線)
 「東大宮駅」よりスクールバス5分、または徒歩20分

芝浦工業大学大学院

理工学研究科

研究科長 高崎 明人

<修士課程>

- 電気電子情報工学専攻
- 材料工学専攻
- 応用化学専攻
- 建設工学専攻
- 機械工学専攻
- システム理工学専攻
- 国際理工学専攻

<博士(後期)課程>

- 地域環境システム専攻
- 機能制御システム専攻

芝浦工業大学専門職大学院

工学マネジメント研究科(MOT)

研究科長 田中 秀穂

<専門職学位課程>

- 工学マネジメント専攻

SIT総合研究所

所長 西川 宏之

- ソフトウェア開発技術教育研究センター
- 脳科学ライフテクノロジー寄附研究センター
- グリーンイノベーション研究センター
- ゼロエネルギー建築研究センター
- テーラーメイドマテリアル工学研究センター
- グローバル建築技術研究センター

芝浦工業大学附属中学高等学校

校長 大坪 隆明

〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7
 Tel:03-3520-8501(代表)
 東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分
 新交通ゆりかもめ「新豊洲駅」より徒歩1分

芝浦工業大学柏中学高等学校

校長 野村 春路

〒277-0033 千葉県柏市増尾700
 Tel:04-7174-3100(代表)
 東武アーバンパークライン「新柏駅」より
 スクールバス5分、または徒歩25分
 JR常磐線「柏駅」より
 スクールバス・東武バス15分

コンプライアンス

学校法人芝浦工業大学の教職員は「学校法人芝浦工業大学教職員行動規範」に則って誇りと自覚を持ち、お互いの人権と人格を尊重し、それぞれの職務、役割の遂行に際して、誠実で高い倫理観をもって、本法人の発展に努めています。また、ユニバーシティ・ガバナンスの必要性から監査室を設置し、内部監査および公益通報などに関する業務を扱っています。このほかにも下記にあげる体制で法人内のコンプライアンスを保っています。

- 教職員行動規範の制定
- 教員倫理綱領の制定
- 公的研究費の適正な執行のための指針・規則の制定
- 個人情報保護規程およびガイドラインの制定
- ハラスメント防止規程の制定およびハラスメント相談員の設置
- 動物実験規程の制定
- 人事行動計画の策定
- 公益通報に関する規程の制定と相談窓口の設置(監査室) など
- 利益相反マネジメント規程の制定

校章

芝浦工業大学の伝統の地、芝浦は東京湾岸に位置します。学生たちは、海から潮の香届く校舎に学びました。



1949(昭和24)年、新制大学となった当時に制定された芝浦工業大学の校章は、中心に据えた大文字「大学」の下支えに波動を配したものの、立地に恵まれて躍動、発展する工業大学の息吹を表現したデザインです。
 考案したのは、波形が初代学長を務めた松縄信太(元理事長)、大学の字体が事務局長であった三浦元秀(元理事長)。二人の合作です。

学生・生徒数

- 大学 7,761人
- 大学院 1,109人
- 専門職大学院 10人
- 附属中学校 509人
- 附属高等学校 618人
- 柏中学校 578人
- 柏高等学校 865人

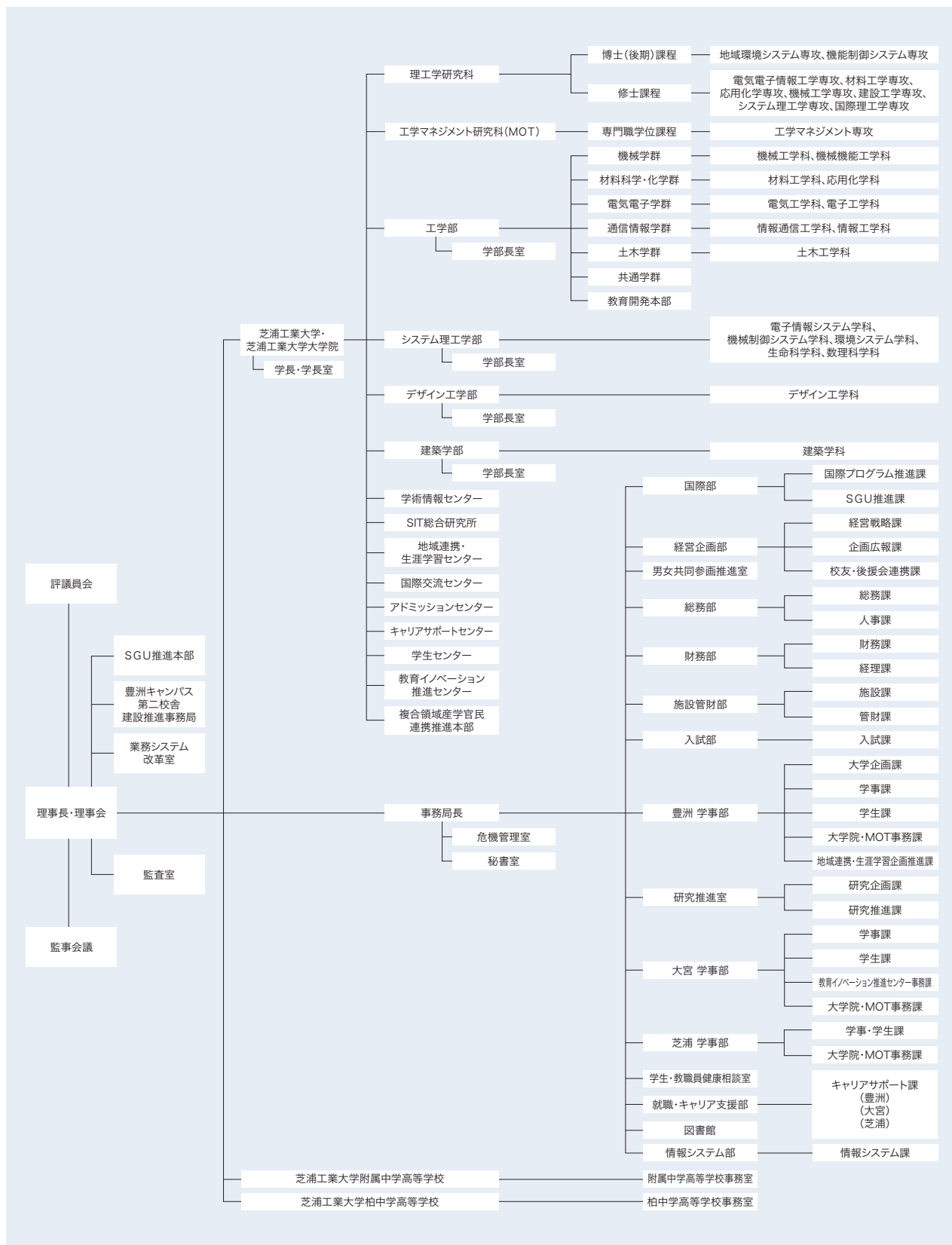
教職員数

- 専任教員
- 大学 334人
- 附属中学校・高等学校 65人
- 柏中学校・高等学校 76人
- 専任職員
- 大学 189人
- 附属中学校・高等学校 4人
- 柏中学校・高等学校 4人

施設概要

- 大学・大学院・専門職大学院
- <土地> 210,379.55㎡
- <建物> 142,605.37㎡
- 附属中学・高校
- <土地> 17,026.34㎡
- <建物> 18,087.80㎡
- 柏中学・高校
- <土地> 52,739.68㎡
- <建物> 15,816.72㎡

組織図 (2018年4月1日～)

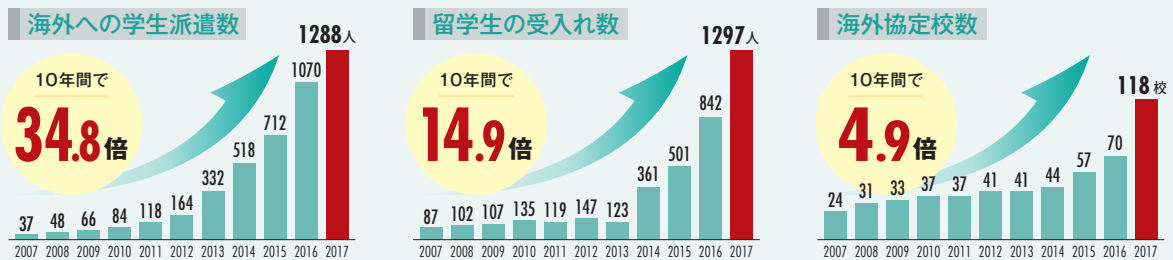


TOPICS

芝浦工業大学

グローバル化の取り組み

私立理工系大学で唯一のスーパーグローバル大学創成支援 (SGU) 採択校 (2017年度中間評価においてA評価獲得) として、海外への学生の派遣数や留学生の受入れ数、協定校数など飛躍的に増加しています。



教育研究改革の取り組み

■ 私立大学等改革総合支援事業で5年連続4タイプに採択

教員・職員・学生が協働で教育研究改革を進め、文部科学省から高い評価を得ており、「私立大学等改革総合支援事業」においてこれら4タイプに5年連続で採択されたのは、全国700に及ぶ私立大学等の中で芝浦工業大学のみとなります。



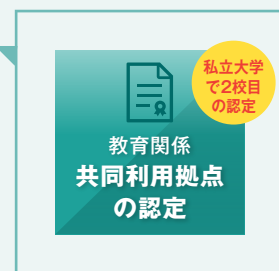
■ APプログラム中間評価で最高「S評価」

本学の教育への取り組みが、文部科学省「大学教育再生加速プログラム (AP)」(テーマⅠ (アクティブ・ラーニング)・Ⅱ (学修成果の可視化) 複合型) の中間評価において、最高評価の「S評価」を獲得しました。今回の中間評価においてS評価を受けた取り組みは、テーマⅠ・Ⅱ複合型全21件のうち4件 (19%)、事業全体では77件のうち14件 (18.2%) でした。



■ 文部科学大臣より教育関係共同利用拠点の認定

教育イノベーション推進センターは、理工学教育のモデル構築とその基本的な枠組みおよび教育手法を国内に浸透させる拠点として、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点 (大学の教員・職員の組織的な研修等の実施機関) の認定を受けています (認定期間：平成28年7月29日～平成31年3月31日)。これは、各大学が持つ教育施設や機関を他大学にも供することで、大学教育全体としてより多様で高度な教育を目指すための制度であり、私立大学では2校目の認定となります。



芝浦工業大学附属中学高等学校

工科系大学の附属にしかできない強力なSTEAM教育を推進

AIが社会のいたるところに組み込まれる次世代の情報化社会において、今STEAM教育(Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics)の重要性が叫ばれています。しかし日本の中学校・高等学校(普通科)において、TechnologyとEngineeringを教育していくのは人材の面でも設備の面でも簡単ではありません。本校は芝浦工業大学の附属校である利点を生かし、STEAM教育を強力に推進。中学では1年次にバスタブリッジの製作、2年次にロボット入門講座、3年次にはものづくり講座と、学年の成長に合わせた講座を展開。この講座を楽しみに入学してきた生徒も多数います。高校では大学授業の先取りともいえる高度な実験・製作を行います。例えば高校入学生対象のスターリングエンジンの製作やデザイン工学演習、中学からの一貫生を対象にしたマイコンスパイダーロボットの製作など。どれも大学教授の指導の下、本校でしかできない教育と言えます。



またプログラミングなど情報教育に力を入れている点も他校にない特色です。レゴ社の教育用ロボット製作キットを45台揃え、一人1台の体制で授業を行っています。中学ではRuby、高校ではC言語を学習し、ロボットを制御することでプログラミングの難しさと楽しさを学びます。

芝浦工業大学への推薦入学生には高校3年次2学期の2カ月半、アメリカやニュージーランドの現地高校へ留学できる制度や、フィリピンのセブ市でのプログラミング&英会話研修など、次世代のグローバルリーダーを育成する国際プログラムにも力を入れています。

芝浦工業大学柏中学高等学校

加速する‘グローバル・サイエンス人材’育成
スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に再指定

芝浦工業大学柏中学高等学校では、文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を5年間(2004～2008年度)受けた後、その取り組みをベースとした独自のサイエンス教育を行ってきました。さらに、本校がこれまで行ってきた能動的な学修(アクティブ・ラーニング)や反転授業などの効果を高めるため、2016(平成28)年度からは独自の評価基準表「SKルーブリック」を作成。教員の授業力向上や生徒の質の高い学びにつなげる取り組みを進めています。これらを基に教育プログラムの再構築、中高一貫・高大接続を意識した課題研究による理数研究姿勢の深化を進め、2017(平成



29)年度には再度のSSH指定を目指し、「創造性豊かに個性を発揮し、将来社会で活躍する科学技術人材を効果的に育成する」というテーマで文部科学省に申請。年度末に指定を受けるに至りました。近年、教育分野でも注目されるICTに関しては、本校では早い段階から中学校で一人一台のタブレットPCを持たせ、生きた道具としてフルに活用。設備面でも一部教室に先行して導入していた超短焦点プロジェクター一体型白板「ワイド」を中学校全教室へ設置する計画を2018(平成30)年度に向けて進めています。このほかにも、グローバル社会に対応できる思考力を育成するため、2015(平成27)年度より高等学校にグローバル・サイエンスクラスとジェネラルラーニングクラスのコース制を導入。中学校にも2016(平成28)年度より入試成績優秀者を核としたグローバル・サイエンスクラスを設置したほか、「英語入試」を突破した、英検3級以上レベルの実力のある生徒(グローバル合格者)に対して高1レベルの「英語取り出し授業」を行っています。生徒が自然に切磋琢磨できる雰囲気を醸成したうえで、一部秀でた能力などを日々の授業の中でさらに伸ばす工夫をしています。

キャンパス・施設

豊洲キャンパス

TOYOSU

ビジネスと暮らしが融合する産業創造の新拠点として注目のエリア「豊洲」。そのまちびらきの年となった2006(平成18)年に誕生したのが豊洲キャンパスです。あらゆる研究設備を備え、開放性を重視したキャンパスは、芝浦工業大学が推進する、地域とのコミュニケーションを通して知識と人間力を育てる実学の実践を支えています。2017(平成29)年2月には製図室棟が新たに完成しました。工学部の3・4年生と建築学部生および大学院生が学んでいます。



大宮キャンパス

OMIYA

広大な敷地に緑があふれる大宮キャンパス。愛称となっている「グリーンキャンパス」は、学校法人芝浦工業大学が商標登録しています(商標登録第4584482号)。工学部およびデザイン工学部の1・2年生とシステム理工学部生および大学院生が学び、部活動やサークル活動の拠点にもなっています。2017(平成29)年3月には人工芝の総合グラウンドが完成しました。



芝浦キャンパス

SHIBAURA

2009(平成21)年4月に開校した芝浦キャンパスは、法人本部があり、デザイン工学部の3・4年生および大学院生が学んでいます。今まさに再開発の進む芝浦エリアで刺激を受けながら学ぶことはもちろん、少し足を延ばして、東京を代表する街や施設で最先端の流行を肌で感じることがもできます。



芝浦工業大学附属中学高等学校

SHIN-TOYOSU

2017(平成29)年4月、新豊洲エリアに建設された校舎に移転、開校した新豊洲校舎は、旧板橋校舎の約1.5倍の敷地面積と約2倍の延床面積に、最先端のICT教育設備と運動施設を備えています。大学の豊洲キャンパスから徒歩16分の距離にあり、他に例を見ない充実した中高大連携教育が行われています。



芝浦工業大学柏中学高等学校

KASHIWA

千葉県柏市の増尾城址公園に隣接した自然と緑に囲まれた田園地帯に立地しています。近年は校舎の整備が進み、県道側隣接地には第3グラウンドを造成。体育の授業やクラブ活動を行う第1グラウンドにはミストの噴出装置を埋設した最新の人工芝を導入し、2017(平成29)年度にはLED照明も設置するなど、学びの場の環境づくりに力を入れています。





最先端の機器が並ぶテクノプラザ

研究所

2009(平成21)年、先端的な研究活動を推進する組織として「SIT総合研究所」が発足しました。各キャンパスの研究拠点は最新設備の整った環境で、国内外の産業界と交流する場であり、研究活動に勤しむ学生の実践的技術者育成の場にもなっています。2015(平成27)年には「SIT総合研究所 テクノプラザ(共通機器センター)」という、最先端の分析機器・試験機器などを一堂に集めた新たな研究施設が豊洲キャンパスに完成し、ますます研究活動が活発に行われています。

図書館

豊洲、大宮、芝浦の各キャンパスに図書館が設置されており、キャンパス間での図書の取り寄せが可能です。

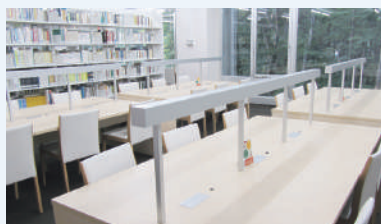
2018(平成30)年4月現在の蔵書数は、3キャンパス合計230,428冊。図書、雑誌に加え、約7,400種の電子ジャーナル、約15,800冊の電子図書など最新鋭の閲覧環境が整備されています。本学の教育・研究にも大変重要な貴重コレクションの学外公開も行っています。

大宮キャンパスの図書館は、2011(平成23)年に大規模なリニューアルを行い、グループ学習室が設置されました。

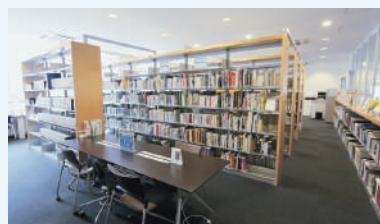
豊洲キャンパスにも2017(平成29)年よりグループ学習室を設置し、学習の拠点として重要な施設となっています。



豊洲キャンパス 図書館



大宮キャンパス 図書館



芝浦キャンパス 図書館



国際学生寮

国際学生寮

留学生と日本人学生が共同生活を送ることで国際感覚を養い、グローバル人材の育成を目指す場として、2013(平成25)年4月に大宮キャンパスにオープンしました。学生たちが日常生活やイベントを通じて異文化コミュニケーションを積極的に図る場となっています。

鉄筋コンクリート造 地上5階建/120室(全個室)

・寮生数 113人 ・外国人比率 日本人 58人：留学生 55人

・留学生の国籍 中国、タイ、マレーシア、韓国、インドネシア、スウェーデン、ドイツ、ブラジル、モロッコ、ロシア、台湾 (2018年5月1日現在)

東大宮学生寮

2016(平成28)年4月より、学生相互の自主的な共同生活を通じた人間力の育成を目的とし、男子学生寮「東大宮学生寮」を開設しています。大宮キャンパスの最寄駅であるJR東大宮駅に近く、朝・夕の食事提供もあり、充実した環境で大学生活に集中できる特徴を有しています。

鉄筋コンクリート造 地上5階建/100室(全個室) /

食堂 30席/朝夕食 事前予約制(月~金)

・寮生数 96人

(2018年5月1日現在)



東大宮学生寮

芝浦工業大学

学長あいさつ

スーパーグローバル大学としての使命

学長 村上 雅人

資源を持たざる小国である日本が、世界の中で高い競争力を保ってきたのは、その優れた教育によって「ひと」を育ててきたからです。今後も、世界の先進国としての地位を維持するためには、社会に貢献できる理工学人材の育成が重要課題です。また、グローバル化が進んだ現代社会では、世界の国々や人々と協調し、ともに協働して発展することも大切です。このようなグローバル社会の持続的発展に貢献できる人材を育成することが芝浦工業大学の使命と考えています。

本学は、2014（平成26）年に私立理工系で唯一スーパーグローバル大学に採択されました。大変、名誉のあることですが、一方で、私立理工系を代表して、日本のグローバル教育のモデルを構築する役目も与えられたものと理解しています。

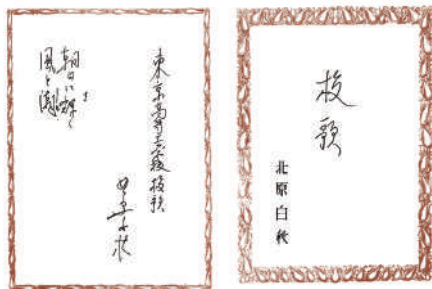
この目標を達成するためには、世界水準の教育を実践し、先端的な研究に挑戦するとともに、教育と研究を両輪として、教職学が一体となった大学運営を進める必要があります。また、スーパーグローバル大学には、男女共同参画を含めたダイバーシティ推進も重要です。教育も研究も、多様性の中でこそ輝きを増し、そして、最大限の効果を発揮するというのが世界の常識です。そのため、多くの外国籍教員の採用も進めています。2018（平成30）年には、ヨーロッパ、アメリカ、アジア出身の12名が新たな教員として仲間入りしました。



芝浦工大は、教職員一人ひとりが、みずから研鑽に努めることで、世界に通用する大学を目指します。そして、多くの在学学生や卒業生が、本当にこの大学を選んで良かったと心から思えるキャンパスづくりに教職学協働で取り組んでいきます。

芝浦工業大学 校歌

本学の前身校、東京高等工商学校の校歌として制定されたものが、新制大学移行後に「芝浦工業大学校歌」となりました。作詞が北原白秋、作曲は山田耕筰によるものです。



「東京高等工商学校校歌」北原白秋自筆の歌詞原稿

●北原白秋 作詞
●山田耕筰 作曲

1 朝日に輝く 風と潮
雄大 空あり 雲は移る
仰げよ校旗の 翻翻たるを
白亜の殿堂 ここに聳え
われらが工学 英気鍾む
芝浦 芝浦 われらが母校

2 世紀に脈うつ 熱と理性
剛健 矩あり 常に鍛ふる
行へばがらに 洗刺たれや
師弟の純情 一に依りて
磨くにこの技 神に通ず
芝浦 芝浦 われらが母校

3 永遠に栄ゆく 意志と秩序
誠実 ただあり 道は徹る
夢むな空理の 漠々たるを
精微をきはめて 事に即かば
工学日本 大を成さん
芝浦 芝浦 われらが母校

Centennial SIT Action

芝浦工業大学は、100周年を迎える2027年に、アジア工科大学のトップ10に入るという目標を設定しました。これは、私立理工系大学として唯一、スーパーグローバル大学 (Top Global University) に文部科学省から選定されたことを意識したものです。

世界のグローバル理工系大学に向かって進むために、大学として、次の5項目からなる取り組み課題を据え、Centennial SIT Actionとして宣言しました。

- 1 理工学教育日本一
- 2 知と地の創造拠点
- 3 グローバル理工学教育モデル校
- 4 ダイバーシティ推進先進校
- 5 教職協働トップランナー

これら取り組みに対し、常に数値データ(KPI: Key Performance Indicator)をもって行程を管理し、PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクル展開による目標達成に臨みます。数値目標には、学生の学修時間数、日本人学生海外経験率、学生の英語力、外国人留学生比率、教員の年間論文件数、企業等との受託・共同研究件数、女性教員比率、女子学生比率などを含んでいます。100周年には真のスーパーグローバル大学たることを目指して、「常に前進する文化の醸成」をモットーに教員と職員と学生が協働で前進していきます。

「工大サミット」を発足

日本の工科大学が互いに連携しグローバルに活躍できる人材育成に取り組むことを目的に、大阪工業大学、愛知工業大学、広島工業大学、福岡工業大学へ構想を提案、2017(平成29)年3月「工大サミット」を発足、2018(平成30)年は新たに東北工業大学が加わりました。学生のグローバルPBLへの参加や、共同研究など、工大サミットを契機にした連携や取り組みが行なわれているほか、教学IRデータを用いた分析にも着手し、2018(平成30)年10月には豊洲キャンパスで第2回工大サミットを実施します。

■ 大学認証評価



芝浦工業大学は(財)大学基準協会による大学相互評価ならびに認証評価受審の結果、大学基準に適合していると認定されました。

※「認証評価」とは、教育研究水準の向上に資するため、学校教育法第109条に定める、文部科学省の認証を受けた「認証評価機関」による評価を指し、すべての大学はこの評価を法令で定める期間ごとに受審することが義務付けられています。

認証期間：2012(平成24)年4月1日～2019(平成31)年3月31日

Centennial SIT Action 100周年(2027年)の芝浦工大

アジア工科大学トップ10



大学の使命 (University Mission) 世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成

学部・大学院

工学部

▶▶▶ 創造性豊かな人材を育成する

工学部は、確かな基礎学力の上に工学を学び、社会に貢献できる創造性豊かな人材たる能力を有し、さらに幅広い能力を身につけるべく、国際的な視点に基づいた技術者教育プログラムに取り組み、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

[学修・教育目標]

- 豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を養い、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につけている。
- 工学の本質を体系的に理解し、課題を解決する能力を身につけ、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事を行うことができる。
- 複数のアプローチ、制約条件、社会に与える影響を考慮した、問題の解決方法を導き出し、問題を解決することができる。
- 世界水準の工学技術者教育および多彩な海外経験を通じ、世界と社会の多様性を認識し、高い倫理観を持った理工学人材として活躍できる。

機械工学科

工学の基幹ともいえる総合分野で、基礎科学を重視しながら周辺工学との融合を図り、人と社会との調和を目指します。

機械機能工学科

機械工学をベースに人や環境と調和した新しい「機能」を発想し、実現するための教育と研究を目指します。

材料工学科

金属、セラミックス、有機材料、半導体などあらゆる材料を扱い、産業界が求める新しい材料開発を目指すエンジニアを育成します。

応用化学科

プラスチックをはじめ、電子機器、医薬、農業、環境衛生などさまざまな産業で利用されている化学の知識と経験を備えた人材を育成します。

電気工学科

「エネルギー & コントロール」「ものをつくる」ことを柱に、高度ハイテク化に向かう産業界に幅広く対応する人間性豊かな人材を育成します。

電子工学科

現代社会の基盤として広く使われる電子工学。環境技術やバイオテクノロジー、ナノテクノロジーと融合しさらに高度な技術革新を目指します。

情報通信工学科

モバイル・ワイヤレス通信、通信ネットワーク構築、マルチメディア通信など次世代の情報通信技術を担う技術者を養成します。

情報工学科

「コンピュータを利用して人間の社会と生活を豊かにする技術」を幅広く学びます。技術の根底にある原理を理解しそれらの応用力、創造力を養います。

土木工学科

総合システムである土木工学を大局的にとらえ、オールラウンドな知識とバランス感覚を持った土木技術者を育てます。

システム理工学部

▶▶▶ 統合力と創造思考で次代を拓く

システム理工学部は、理工学の基礎知識と幅広い専門分野の知識に加え、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法、すなわち総合的解決策を追求する「システム思考」、目標達成の機能を作る「システム手法」、および問題解決の人・知識・技術を統合する「システムマネジメント」を修得し、地域と人類社会の発展に貢献する高い倫理観を持ち、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

[学修・教育目標]

- 地球的観点から多面的に物事を考える幅広い教養を備え、他分野・異文化と相互理解・交流し、社会や世界の問題解決に取り組み、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。
- 科学技術の知識を修得するとともに、これを総合して問題解決するための行動計画を推進するためのシステム思考を修得し、問題を発見し、総合的解決策を導き出すことができる。
- 社会の問題解決に必要なシステム工学の理論とその運用能力を備え、人・知識・技術をマネジメントし、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事ができる。
- 専門的知識とその運用能力を備え、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、問題を解決できる。

電子情報システム学科

ソフトウェア分野、メディア・ネットワーク分野、ハードウェア分野を総合的に学習し社会的、技術的に確かなシステムを構築できる人材を養成します。

機械制御システム学科

多様な要求に応える機械システムを開発するため、人との環境を総合し最適化するために必要な原理や思考(システム工学)を学修します。

環境システム学科

身の回りの施設から、国土、地球規模の環境をシステムとして総合的にとらえ、21世紀社会の環境問題の解決を目指す人材を育成します。

数理科学科

数学を中心とする基礎科学を確実に学びながらシステム工学手法を用いて応用問題にも取り組める「数理エンジニア」を育成します。

生命科学科

[生命科学コース]

バイオテクノロジーをもとに、薬理学、遺伝、環境などの観点から老化のメカニズムを解明し、解決方法を導き出します。

[生命医工学コース]

メカトロニクスを学んだ上で、福祉・医療支援ロボット、リハビリテーション機器など、人の生命や機能回復に役立つものづくりの手法を学びます。

2017(平成29)年度より工学部建築学科、建築工学科および、デザイン工学部デザイン工学科(建築・空間デザイン領域)を建築学部建築学科として再編し、デザイン工学部デザイン工学科(エンジニアリングデザイン領域、プロダクトデザイン領域)も再編しました。2016(平成28)年度までの入学生はそれぞれ入学時の学部・学科および領域の学生として在籍します。

デザイン工学部

▶▶▶ 歴史の伝承と新しい知の創造

デザイン工学部は、社会が求める「あるべき姿(当為)」を構築する設計科学技術」を身につけ、工学的知識と技術を基礎として、人間の感性および社会との調和・融合を図り創造的ものづくり能力、すなわちものづくり全体を表現するための1)認識力、2)構想力、3)計画力、4)意匠・設計力というデザイン能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

[学修・教育目標]

- 技術と人間・社会・自然との関連について幅広い知識を身につけ、地球的視点・歴史的視点をふまえながら多面的に物事を考えることができる。
- 技術が世界と社会、自然に及ぼす影響や効果、そして社会に対して負っている責任を理解し、技術者として高い倫理観に基づき行動できる。
- 社会的要請や利用者からの要望を理解し、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事ができる。
- 専門領域の知識・技術を修得して意匠力・設計力を身につけ、これらをもつくりの場で応用して問題を解決できる。

デザイン工学科

生産・プロダクトデザイン系

製品開発のプロセスをトータルに考え、製品の魅力を高める能力と、それを迅速に具体化、製品化するための生産システムを設計・管理できる能力を養成します。今後のグローバル化する社会では消費者の感性に訴える多様な製品をデザインし、少量でも効率よくタイムリーに製造していく必要があります。デザインの手法やプロセスと、最新の生産技術を相互の関連性を踏まえたくてで修得していくところに、この系の特徴があります。

ロボティクス・情報デザイン系

アプリから銀行ATMの画面表示まで、スマートフォンからロボットまで、情報が関わるあらゆる産業分野で活躍できる人材を育成します。今後は、ユーザへの情報提示や製品の動作により、ユーザが新しい体験をするコトを価値と見なす製品・サービスが増えています。このためにサービスの企画、ユーザインタフェース(UI)設計、プログラミング、ソフトウェア設計、機器の動作制御のためのメカトロニクス技術などを相互の関連性を理解したうえで学んでいくことが、この系の特徴です。

建築学部

▶▶▶ 90年の伝統を誇る芝浦建築の歴史と伝統を継承

建築学部は、自然科学や人文社会科学を含んだ学際的視点を持ち、豊かな建築・都市空間の創造により社会に貢献できる能力、また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適応できる能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

[学修・教育目標]

- 歴史的発展を踏まえて建築を捉え、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題を理解できる。
- 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための高い倫理観を身につけている。
- 自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている。
- 世界と社会の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力を持ち、21世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚とチームで仕事ができる能力を身につけている。
- 豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる。
- 課題の発見・解決のために、建築に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、理解しようとする姿勢を身につけている。

建築学科

APコース(先進的プロジェクトデザインコース)の特徴

災害復興、地域再生、エネルギー・環境問題などに取り組む先進的なプロジェクトを通して、グローバルな視点から建築・都市・空間をデザインします。

SAコース(空間・建築デザインコース)の特徴

身の回りの空間から住宅、建築などのスケールに重心を置き、幅広い領域の建築技術を総合し、建築・都市・空間をデザインします。

UAコース(都市・建築デザインコース)の特徴

人びとの生活する建築から都市、まちづくりなどのスケールに重心を置き、幅広い領域の建築技術を総合し、建築・都市・空間をデザインします。

大学院 理工学研究科

▶▶▶ 実務的な技術者の育成

理工学研究科は、専門分野のプロ意識を備え持ち、社会の新しい側面に対応できる能力と、それを即戦力として活用し社会貢献できる能力を養うことを教育理念としています。2017(平成29)年度からグローバル化に向けた高度教育を行うことを目的とした国際理工学専攻が新設されました。

修士課程

- 電気電子情報工学専攻
- 応用化学専攻
- 建設工学専攻
- 材料工学専攻
- 機械工学専攻
- システム理工学専攻
- 国際理工学専攻

博士(後期)課程

- 地域環境システム専攻
- 機能制御システム専攻

専門職大学院 工学マネジメント研究科

▶▶▶ 技術のわかる次世代の経営幹部の養成

※2017(平成29)年秋入学から新規入学生の募集を停止しました。

社会・経済のグローバル化が進展する中で、企業をはじめあらゆる組織が変革を迫られています。その変革の原動力は「新しいアイデアを新規の製品やサービスに具現化する、あるいは既存の製造プロセスや業務フローの革新を実現する」イノベーションにあります。

工学マネジメント研究科(MOT)は、そのイノベーションの担い手を育成することを目標としており、技術と経営の一体化、理論と実践の融合を目指し、組織各層が共有すべきイノベーション実現に必須となる生きた知識と思考法を提供します。

MOT: Management of Technology

専門職学位課程

- 工学マネジメント専攻
(財)大学基準協会より、経営系専門職大学院の適合認定を受けました。

認証期間:2014(平成26)年4月1日～
2019(平成31)年3月31日

国際交流

■ スーパーグローバル大学取り組みの概要

芝浦工業大学では単に英語が話せるだけでなく、海外の学生や技術者と専門分野のコミュニケーションも取ることができる「グローバルエンジニア」の育成を目指し教育を行っています。こうしたスキルは、海外語学研修や海外協定校との課題解決型学習、産学官連携による人材育成プログラムなどを通じて養われます。

2017（平成29）年度にはシステム理工学部国際コースを新設しました。専門分野を英語で学び、海外の大学で専門科目を受講し、英語での研究を進めるといった先進的なカリキュラムでグローバル人材の育成を目指します。大学院には、国際理工学専攻を新設し、英語による講義と研究指導を行っています。また、2020年4月には学部で英語のみで学位取得ができるコースを設置する予定です。

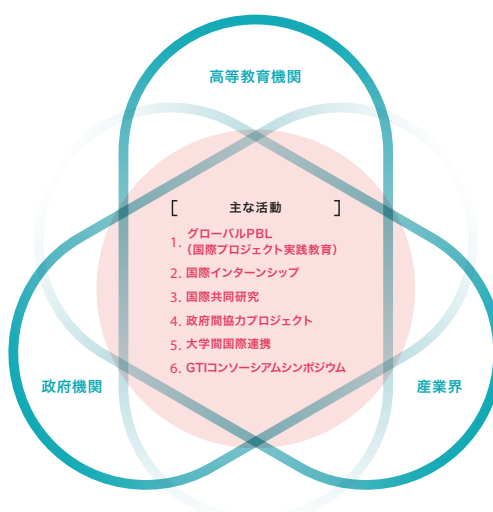


■ GTIコンソーシアム取り組みの概要

産業の発達とともに急速に加速するグローバル化に対応するため、芝浦工業大学は日本と東南アジアを中心とした国際産学官連携のアライアンスであるGTI(Global Technology Initiative)コンソーシアムを2015(平成27)年12月に設立しました。2017(平成29)年度はメンバー企業や行政機関が課題設定をしたグローバルPBL、インターンシップや企業見学を多数実施しました。また、メンバー大学から本学が主催するグローバルPBLへ参加する学生も増え、コンソーシアムとして活動の幅が広がっています。

12月には「産学官連携による人材育成の取り組み」をテーマにシンポジウムを開催し、100機関以上から360人の参加がありました。連携プログラムを実施した企業・教員・学生がそれぞれの立場から、連携のメリット・課題を報告しました。

2018(平成30)年度も引き続き国際的な産学官連携による人材育成とイノベーションの創出を推進してまいります。



GTIコンソーシアム 運営委員会構成機関一覧

独立行政法人国際協力機構 (JICA) / 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) / 独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO) / 株式会社IHI / 株式会社NTTデータ / キヤノン株式会社 / 東京東信用金庫 / トヨタ自動車株式会社 / 株式会社フジクラ / ボッシュ株式会社 / 株式会社三井住友銀行 / 三井住友建設株式会社 / 三菱電機株式会社 / 工学院大学 / 東京電機大学 / 東京都市大学 / 福岡工業大学 / 芝浦工業大学

■ グローバルPBL

PBLは、Project Based Learning の略称で、「プロジェクト実践教育」や「課題解決型学習」などと訳されます。学生は、海外協定校の学生とプロジェクトチームを組み、専門分野もしくは学際的なテーマに対する課題解決に取り組みます。学生は多様性に富んだチームメンバーとの共同作業を通じ、約2週間～1カ月のプロジェクト期間内に一定の解決策を提示することを求められます。

プロジェクトのテーマは、GTIコンソーシアム加盟機関から提供を受ける場合も増えており、実践色の濃いグローバルPBLが複数実施されています。

学生はグローバルPBLを通じ、世界で活躍するエンジニアに必須となる4つの能力(コミュニケーション能力、グローバル人間力、異文化理解力、問題解決能力)を身につけることを目指します。



■ 語学研修

欧米・東南アジア各国・インド等の協定校へ約2～4週間渡航し、英語を学ぶプログラムです。内容は一般的な英語にとどまらず、エンジニアリングに関連したテーマや、プレゼンテーション技法なども学びます。現地学生との交流や、企業見学・工場見学・研究室訪問も行い、現地の異文化に触れつつ世界で活躍するエンジニアとなるための基礎力を養います。



海外インターンシッププログラム

外国人の習慣・発想・考え方に触れながら実社会を経験する海外インターンシッププログラムを日系企業を中心に実施しています。

2017(平成29)年度海外インターンシップ研修生受入れ企業(一部抜粋)

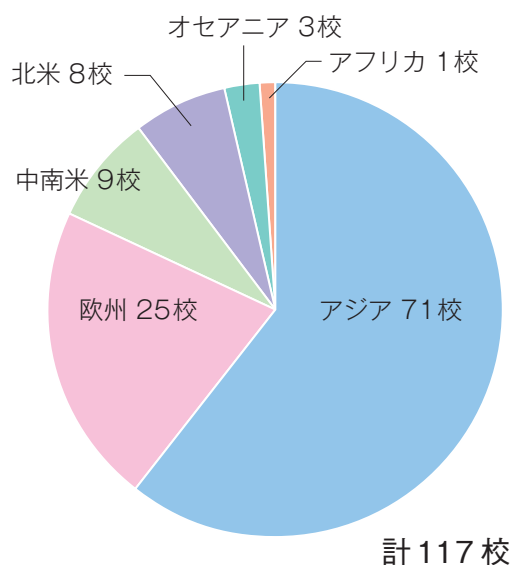
企業名	学科	行き先	研修内容
三井住友建設	土木工学科	ベトナム (ホーチミン)	・各部署の業務内容講義 ・現場見学
	建築学科	タイ (バンコク)	・現場見学 ・施工管理講義 ・現場作業改善提案 ・現場作業体験 ・会議参加
ボッシュ	機械機能工学科 機械工学専攻	ベトナム (ホーチミン)	・社内別部署向けのソフトウェア 開発(組み込みソフトウェア)
AMADA	機械工学専攻	アメリカ (ロサンゼルス 近郊)	・同社の加工機械を用いた製品2 種の製造(設計および加工)
オリエンタル モーター	電気工学科(2人)	シンガポール	・製品の講義 ・工場見学 ・製造ラインの改善点提案
マブチモーター	電気電子情報工学 専攻(2人)	中国 (広東省東莞)	・モーターの性能測定と寿命私見 ・工場見学 ・サンプル製品の製作
三菱エレベーター	機械機能工学科 機械工学専攻	タイ (バンコク)	・製品の講義 ・仕様書とカタログの翻訳
鹿島建設	建設工学専攻	タイ (バンコク)	・タイの建築の講義 ・都市計画の講義 ・現場見学 ・設計実習(実際の案件ベース)



海外協定締結校(一部抜粋)

国	大学名称
アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校、 バージニア大学、パデュー大学ノースウェスト校
イギリス	ラフボロー大学
イタリア	ラクイラ大学、マルケ工科大学
インド	インド工科大学カーンプル校、インド工科大学、 マドラス校
インドネシア	バンドン工科大学、ガジャマダ大学、スラバヤ工科大学
オーストラリア	ウーロンゴン大学
オーストリア	ウィーン工科大学
シンガポール	シンガポール国立大学(NUS-ISS)
スイス	ローザヌス連邦工科大学
スウェーデン	ストックホルム王立工科大学
タイ	キングモンクット工科大学、スラナリー工科大学、 泰日工業大学
ブラジル	カンピーナス州立大学、ブラジル連邦大学ABC、 サンパウロ大学
フランス	パリ・ベルヴィル建築大学
ベトナム	ハノイ理工科大学、ホーチミン市工科大学、FPT大学
ポーランド	ポーランドアカデミー科学技術大学
マレーシア	マレーシア工科大学、マレーシア・日本国際工科院
メキシコ	モンテレイ工科大学
ロシア連邦	モスクワ建築大学
台湾	台湾科技大学
大韓民国	漢陽大学、高麗大学、中央大学
中国	東北大学、上海大学、武漢理工大学

地域別海外協定校(2018年2月現在)



国際交流

■ 東南アジア理工科系大学との連携

留学生受入れの代表的な取り組みとして、東南アジア諸国を対象とした2つのツィニングプログラムを推進しています。そのうちの1つである「マレーシア・ツィニングプログラム」は、マレーシア政府が実施する留学生派遣事業であり、マレーシアでの教育（3年間）と日本での教育（2年間）のツィニングにより、日本の大学にて学士号を取得するプログラムです。本学はプログラム開始以来25年にわたり、日本の受け入れ大学コンソーシアムの幹事校として、これまでに約150人（コンソーシアム全体で約1,400人）の留学生を受け入れています。

もう1つのツィニングプログラムである「ハイブリッド・ツィニングプログラム」は、修士課程と博士課程を複合（ハイブリッド）して、協定を結んだ東南アジアの代表的な理工系大学と連携（ツィニング）し推進するプログラムです。協定校から、修士1年次を修了した優秀な学生を受け入れ、英語による教育・研究指導を行います。修士課程修了後は本学の博士課程に進学、博士号を授与する大学院国際教育プログラムです。



男女共同参画

■ 女性教員の増員と研究力の強化を目指して

芝浦工業大学は、Diversity&Inclusionの一環として、男女共同参画を推進しています。理事長・学長のリーダーシップのもと、Centennial SIT Action、文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」（一般型）（2013年～2015年）、同連携型（2014年～2016年）を通じて、女性教員の積極的採用と研究力強化、出産・育児・介護等の時期にも教育研究活動の水準を維持できる環境の整備に取り組んできました。その結果、2013（平成25）年度に26人であった女性教員は2018（平成30）年度には59人へと倍増しました。また、科学研究費助成事業採択件数に占める女性研究者による研究は、2013（平成25）年度の9件（9.8%）から2017（平成29）年度には20件（18.3%）へと上昇しています。こうした積極的取組と成果が評価され、2015（平成27）年度「東京都女性活躍推進大賞（教育部門）」を受賞しました。また本学の「女性研究者研究活動支援事業」（一般型）は同年度採択13機関中唯一、最高評価「S評価」を獲得しました。実績をステップに、女性をはじめ誰もが学び・働きやすく・活躍できる大学づくりを着実に推進していきます。



2017年度第1回男女共同参画推進ワークショップ
「イノベーションを創出する人材の育成—女子学生から女性研究者へのパイプラインの構築—」

研究・技術開発

■ “SIT研究ビジョン” ～知と地の創造拠点・芝浦型gERC構想～

芝浦工業大学では、創立100周年にむけた大学戦略Centennial SIT Actionにおいて、「知と地の創造拠点」の構築を掲げました。これは研究力強化策として、国際共同研究を通じた世界レベルの研究拠点形成と地域自治体や中小企業との共同研究を通じた社会貢献を両輪として進めていくものです。

連携研究の推進にあたっては、複数の多様な研究室が有機的に交流し、共通の課題解決にむけた取り組みを期待すべく、4項目の重点研究領域*を設定しています。そして、これらの研究の場が、芝浦型Global Engineering Research Center (gERC) です。基礎研究→知的財産の形成→プロトタイプまでを切れ目なく推進する仕組みで、社会実装を目指します。また芝浦型gERCは、大学研究者だけでなく、企業研究者・学生も参画し、様々な立場の人材が切磋琢磨する場でもあります。

こうした研究活動の推進役が産学官連携コーディネーター・URAです。彼らは、社会と大学、大学内での横断的連携研究を進める要となっています。

大学の使命は、「価値創造」と、その活動を通じた「人材育成」です。芝浦工業大学は、企業、行政、地域と協働し、輝かしい未来に貢献していきます。

*4つの重点研究領域：①クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上②超スマート社会(Society5.0)の実現③グリーンイノベーションの創出④ものづくり先端基盤技術の確立

産学官連携活動実績(2017(平成29)年度)

- | | |
|---------------------------|--|
| ① 受託・共同研究実績：277件 / 309百万円 | ② 競争的資金の活用：公的資金の獲得額(科研費を除く) 53件 / 249百万円 |
| ③ 科学研究費助成事業：110件 / 174百万円 | ④ 技術相談への対応：技術相談件数 319件(うち共同・委託研究への発展59件) |
| ⑤ 特許出願数：42件(国際出願含む) | |



浦和美園地区での都市デザインスタジオ最終発表会



2輪車用転倒防止システムのプロトタイプ1号

■ 地域との共創を通じた研究・技術開発

芝浦工業大学は、2013(平成25)年度に文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択され、全学的な地域連携を推進してきました。本事業は2017(平成29)年度で終了しましたが、全学生が一度は地域課題に触れる「地域志向科目」の設定、地域との関係者と取り組む「COCプロジェクト(産学連携・地域連携PBL)」など、事業終了後も地域連携活動を継続発展させています。

このような地域との連携を通じた教育・研究、「地域共創シンポジウム」「産学官連携研究交流会」といった研究紹介や技術マッチングイベントなどを通じ、地域企業との共同研究が着実に増加しました。2013(平成25)年度に39件だった連携地域内の企業との共同研究は2017(平成29)年度には60件に増加しました。地域における知の拠点として、社会に貢献すると共に、学生にとって、より実践的な教育・研究の場を形成していきます。



まちづくり・ものづくり連携によるクルーズガイド実証実験

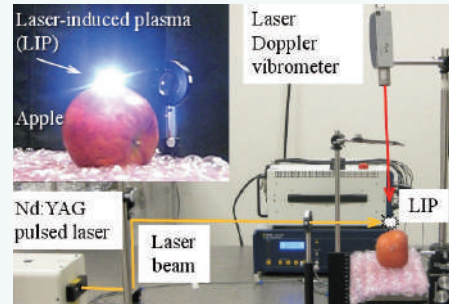


COC学生成果報告会でのポスターセッション

2017年度の研究・開発事例

青果物の品質を非接触・非破壊で評価するシステムを開発

細矢直基教授(機械機能工学科)は、レーザー誘起プラズマ(Laser-Induced Plasma: LIP)による衝撃波を用いて、青果物に全く触れずに非破壊で品質を評価できるシステムを開発しました。青果物の品質を評価するにあたり、熟度に相関がある「硬さ」に着目。パルスレーザーを空气中に照射してLIPを形成し、それによって発生するLIP衝撃波を用いて、りんごの硬さを非接触・非破壊で評価することに成功しました。これにより、従来の接触式デバイス、香り、色などでは品質評価が困難だった青果物や収穫前の青果物にも適用できる可能性があり、すべてを自動化することで作業工程・人力の負担削減なども期待できます。



LIP衝撃波による青果物の品質評価システム

熊本県甲佐町の災害公営住宅と子育て支援住宅を設計

岡野道子特任准教授と山代悟特任教授(ともに建築学科)が、熊本県上益城郡の「甲佐町住まいの復興拠点施設整備設計」に係る設計者選定の公募型プロポーザルにて最優秀者に選ばれ、2人の提案が採用されることになりました。災害公営住宅は2018(平成30)年8月、子育て支援住宅は2019年10月竣工予定です。甲佐町の環境をデザインすることを大きなテーマに構成されている点などが評価され、応募総数24件の中から一次審査、公開審査を経て採択されました。



自然と建築が一体となった熊本型の災害公営住宅

ねじ締付け後のゆるみ点検ができる次世代工具「軸力計測レンチ」を開発

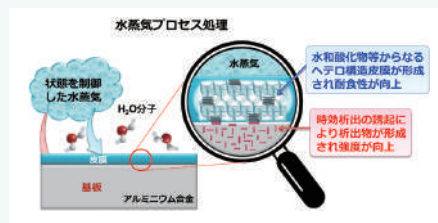
橋村真治教授(機械機能工学科)は、株式会社東日製作所と共同で「軸力計測レンチ(製品名 JIXY)」を開発し、2017(平成29)年10月27日～11月5日に開催された東京モーターショー2017でプロトタイプを発表しました。ボルト・ナットなど、ねじにより締付け後の締め具合をチェックするのは、ハンマーによる打音検査がよく行われていますが、打音検査では具体的な締め具合を示す締め付け力を検出することはできませんでした。本製品は、これを明確な数値で確認でき、疲労破壊に繋がるねじのゆるみを検知できます。



東京モーターショー2017での参考出品の様子

アルミなど軽金属の高強度・高耐食化を両立する 水蒸気を用いた表面処理技術を開発

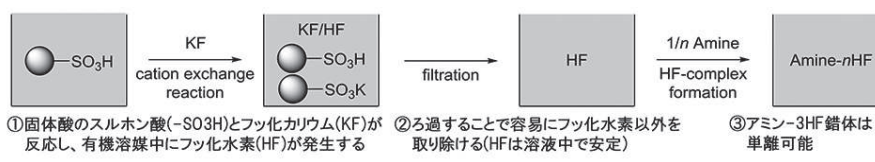
芹澤愛准教授(材料工学科)は、アルミニウム材料を高温・高圧下の水蒸気にさらすだけで、高強度・高耐食化の両立を実現する表面処理技術を開発しました。1プロセスで済み、少量の水のみで大面積かつ複雑な形状の部材にも処理が行え、化学薬品も使用せずに生産することができます。また、処理後のアルミニウムは、何もしない状態に比べて錆びにくさは100分の1程度、強度は1.5～2倍(合金の種類で変動)に向上します。現在、産学連携を進めており、数年以内に自動車部材や電化製品などの分野での実用化を目指します。



水蒸気プロセス処理

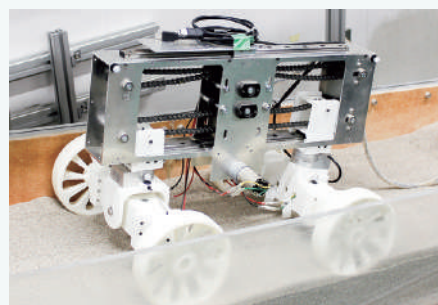
医・農薬品合成で有用なフッ化水素を 安全・安価・高効率に生成する新手法を開発

田嶋稔樹准教授(応用化学科)は、安全ながら有機溶媒に難溶なフッ化カリウムに対して、安価な固体酸を有機溶媒中に添加することでフッ化水素にはほぼ100%の効率で定量的に変換する、新手法を開発しました。さらに溶液中のフッ化水素は、安全なフッ素化剤として広範なフッ素化反応に適応可能なアミン-nHF錯体へ、容易に変換できます。この技術は、身近なところではガンの早期発見のためのPET(陽電子放射断層撮影装置)検査へ適用でき、迅速かつ安価にPET検査薬を合成できることから、今後普及することでガンの早期発見、早期治療が期待されます。



砂地やぬかるみでも足を取られない タイヤの間隔が動く走行システムを開発

飯塚浩二郎教授(機械制御システム学科)は、前後のタイヤ間隔を伸縮することで、粒子が細かく移動が困難な軟弱地盤でも前進できる車輪走行システムを開発しました。全輪駆動で進めなくなった時は後輪を前輪まで引き寄せ、その後もとの間隔まで戻す動作を加えることで、前進し続けることが可能であることを導き出しました。この技術は、動作のためにモーターをひとつ増やすだけで実現できるため、コストも安価であるほか、惑星探査機だけでなくレスキュー活動や雪上移動、農業にも応用が可能なため、今後企業などとの共同研究により、実用化を目指します。



モーターをひとつ増やすだけで実現

キャリア支援

「就職に強い」から「仕事に強い」大学へ

さまざまなセミナーやガイダンスの開催をはじめ、進路相談、エントリーシートの作成指導など一人ひとりの将来を見据えた就職支援を行っています。

また、実際に企業で活躍するOB・OGと連携し、学内企業説明会や面接対策セミナーを実施することで、就職活動に向けた実践的な対策を行っています。

2017(平成29)年度の就職率は97.7%と私立理工系大学でトップクラスを誇っています。また、東証一部・二部上場企業への就職率は学部卒業生で49.0%、大学院修了生で57.8%と各産業界のリーディングカンパニーに多くの卒業生を輩出しており、「仕事に強い大学」として評価されています。これまでも、12万人以上の卒業生が社会で活躍し、堅実なエンジニアとして高い評価を受けています。

※ 就職率：就職希望者1,673人のうち、就職が決定した者1,634人の割合



就職相談



OB面接指導

就職先企業ランキング

(単位：人)

順位	就職先企業	総計 (うち女子)	順位	就職先企業	総計 (うち女子)	順位	就職先企業	総計 (うち女子)
1	東日本旅客鉄道(株)	33(3)	10	大和ハウス工業(株)	10(1)	19	住友林業(株)	8(1)
2	東海旅客鉄道(株)	25		凸版印刷(株)	10(3)		(株)関電工	8
3	本田技研工業(株)	24(5)		清水建設(株)	10(2)		旭化成ホームズ(株)	8(1)
4	セイコーエプソン(株)	17(3)		日本発条(株)	10		東京都特別区	8(3)
5	積水ハウス(株)	12(2)	15	ススキ(株)	9(1)	25	キャノン(株)	7
	戸田建設(株)	12(2)		日野自動車(株)	9		大成建設(株)	7(1)
	東京都庁	12(2)		(株)長谷工コーポレーション	9(2)		富士電機(株)	7
8	三菱電機(株)	11(2)		NECネットエスアイ(株)	9		前田建設工業(株)	7(2)
	さいたま市役所	11(1)	19	(株)SUBARU	8		NOK(株)	7
10	日本電気(株)	10(2)		(株)大林組	8(1)		山崎製パン(株)	7(1)

2017(平成29)年度業種別就職情報

(単位：人)

学科名	卒業生数	大学院進学	大学院進学率	就職者数	業種別就職者数													進学・就職以外
					建設 関連業	製造業	電気・ ガス	情報 産業	通信・ マスコミ	運輸業	卸売・ 小売業	金融・ 保険	サービス 業他	教員	公務員			
合 計																		
工学部	機械工学科	96	32	33.3%	61	2	40	0	4	0	6	4	0	5	0	0	3	
	機械機能工学科	106	30	28.3%	72	3	45	1	5	0	8	0	0	8	0	2	4	
	材料工学科	100	43	43.0%	52	1	37	0	2	0	4	4	1	1	0	2	5	
	応用化学科	103	44	42.7%	56	4	34	1	3	0	1	4	0	5	0	4	3	
	電気工学科	111	31	27.9%	77	11	37	4	4	1	6	2	1	9	0	2	3	
	通信工学科	104	17	16.3%	82	11	29	0	25	4	2	3	0	5	1	2	5	
	電子工学科	92	26	28.3%	63	7	32	1	8	0	11	0	0	4	0	0	3	
	土木工学科	103	14	13.6%	87	37	3	0	0	0	15	1	0	1	0	30	2	
	〃 社会基盤コース	88	11	12.5%	75	34	3	0	0	0	13	1	0	1	0	23	2	
	〃 社会システムデザインコース	15	3	20.0%	12	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	7	0	
	建築学科	118	47	39.8%	69	57	3	0	1	0	1	1	0	3	0	3	2	
	建築工学科	114	49	43.0%	64	53	2	0	0	0	0	2	0	1	0	6	1	
	情報工学科	106	28	26.4%	74	1	9	0	50	1	0	4	0	8	0	1	4	
	工学部 計	1,153	361	31.3%	757	187	271	7	102	6	54	25	2	50	1	52	35	
システム理工学部	電子情報システム学科	98	9	9.2%	87	5	19	0	49	1	2	0	9	0	1	2		
	機械制御システム学科	80	28	35.0%	49	4	29	0	5	0	2	1	0	7	0	1	3	
	環境システム学科	95	17	17.9%	77	39	6	3	1	0	5	1	0	4	0	18	1	
	生命科学科	115	44	38.3%	66	2	30	0	13	0	1	2	1	16	0	1	5	
	〃 生命科学コース	63	19	30.2%	41	1	18	0	8	0	0	1	1	11	0	1	3	
	〃 生命医工学コース	52	25	48.1%	25	1	12	0	5	0	1	1	0	5	0	0	2	
数理科学科	72	6	8.3%	61	4	2	0	23	1	1	3	3	11	12	1	5		
システム理工学部 計	460	104	22.6%	340	54	86	3	91	2	10	9	4	47	12	22	16		
デザイン工学部	建築・空間デザイン領域	45	13	28.9%	31	24	1	0	0	0	0	0	4	0	2	1		
	エンジニアリングデザイン領域(マトロクスシステム・組みソフトウェア等)	33	13	39.4%	20	1	5	0	10	0	0	4	0	0	0	0		
	エンジニアリングデザイン領域(生産システムデザイン分野)	31	4	12.9%	25	0	20	0	1	0	0	2	0	2	0	2		
	プロダクトデザイン領域	37	5	13.5%	31	2	13	0	7	2	0	4	1	2	0	1		
	デザイン工学部 計	146	35	24.0%	107	27	39	0	18	2	0	10	1	8	0	2	4	
学部全体	1,759	500	28.4%	1,204	268	396	10	211	10	64	44	7	105	13	76	55		
大学院理工学研究科	電気電子情報工学専攻	103	6	5.8%	95	6	55	2	23	2	2	0	0	4	0	1	2	
	材料工学専攻	43	0	0.0%	42	1	26	1	2	0	4	1	0	6	1	0	1	
	応用化学専攻	19	0	0.0%	19	1	16	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	
	機械工学専攻	100	2	2.0%	97	5	77	1	4	0	3	2	0	4	0	1	1	
	建設工学専攻	119	1	0.8%	111	80	2	1	0	3	2	0	0	7	1	15	7	
	システム理工学専攻	72	3	4.2%	66	4	33	0	15	1	2	3	1	4	2	1	3	
大学院全体	456	12	2.6%	430	97	209	5	44	6	13	7	1	26	4	18	14		

学生支援

■ 学生・教職員健康相談室

各キャンパスには学生・教職員健康相談室（保健室と相談室）が配置されており、保健室では、学生や教職員の体調不良・ケガなどへの応急処置はもちろん、健康管理、疾病予防などの相談に応じ、さらに月に1～2回学校医による健康相談日を設けています。相談室では学生生活を過ごす上での悩みごとに対して、カウンセラーが相談に応じ、必要に応じて学外の専門家や各機関への橋渡しを行っています。大宮キャンパス・豊洲キャンパスには「ピア・スペース」を併設し、専任カウンセラーやインターカーと気軽に話ができる休憩場所として利用いただけます。



豊洲キャンパスのピア・スペース

■ 学生総合保障制度

学生生活を取り巻くさまざまな経済的阻害要因の中でも、学生が安心して学業を続けられることを目的に設置されたものです。本制度は奨学金制度と2種類の保険制度から構成されており、保険制度は学業等活動中の保障と日常生活上の保障との2面の構成になっています。本人のケガや、他人の物を壊したりケガをさせてしまったりした場合、その他の災害や傷害事故を対象としてバックアップします。なお、この保険制度に関わる保険料は、全額大学が負担しています。

奨学金

■ さまざまな奨学金で学生をサポート

奨学金制度は、主として人物、学業ともに優れた学生、あるいは経済的理由により就学が困難な学生への経済的援助を通じ、教育機会の均等を図ることなどを目的としています。芝浦工業大学では各種類の奨学金を用意しています。

■ 貸与奨学金

- 芝浦工業大学特別奨学金
- 芝浦工業大学緊急時奨学金
- 芝浦工業大学後援会自活支援奨学金
- 芝浦工業大学大学院修士課程貸与奨学金
- 芝浦工業大学大学院進学奨励奨学金

■ 給付奨学金

- 芝浦工業大学創立80周年記念松縄孝奨学金
- 芝浦工業大学育英奨学金
- 芝浦工業大学大学院修士課程給付奨学金
- 芝浦工業大学創立80周年記念・大学院修士課程給付奨学金
- 芝浦工業大学海外留学奨学金
- 芝浦工業大学外国人学生等給付金
- エスアイテック育英奨学金
- グローバル理工系人材育成大学院給付奨学金
- 芝浦工業大学私費外国人留学生学費援助
- 芝浦工業大学創立90周年学長選考給付奨学金
- 芝浦工業大学大学院留学生給付奨学金
- 芝浦工業大学大学院博士（後期）課程給付奨学金

| Pick up | グローバル理工系人材育成大学院給付奨学金

採用人数：1,000人（2年間で）
年度あたりの定員は500人
（男250人、女250人）

給付額：年間30万円を大学院修了までの
2年間（総額60万円）給付

受給条件は、芝浦工大の学部生および卒業生のうち、大学院進学者（博士（後期）課程を除く）で、入学試験時にTOEICのスコアを550点以上有する者です。

（ただし、本学に在学する学部生は、大学院進学の前年度3月31日までにTOEIC 550点以上のスコアを有した場合、選考対象となります）
エンジニアに多様性理解と国際的感覚が求められる現在、世界で活躍できるグローバル理工系人材の育成を推進し、また更なる大学院進学者増加のために設けられた奨学金です。

教育改善活動

■ 学習サポート室・学習相談コーナー

高校までの学びを補足する学習支援のために、学習サポート室・学習相談コーナーを3キャンパスに開設しています。教員や大学院生が待機しており、数学や英語、物理など基礎的な科目の指導から、学部によっては専門科目の相談やTOEIC対策セミナーも受けることができます。相談の事前予約は必要ありません。授業中にわからなかったことや学習の進め方についてのアドバイスなど、学習全般の相談の場としても利用することができます。



学習サポート室・学習相談コーナー

■ eラーニングシステム「スーパー英語」

eラーニング(インターネットを利用した学習形態)を活用した英語学習支援として「スーパー英語」が運用されています。学内ネットワークにて事前に登録をすれば在学は無料で使うことができ、レベル診断テストや毎週更新されるドリルなど、楽しみながら学習することができます。インターネット環境とパソコンがあれば、いつでもどこでも英語力を磨けます。



「スーパー英語」画面

FD・SD活動

教育イノベーション推進センターは、2016(平成28)年、理工学教育のモデル構築とその基本的な枠組みおよび教育手法を国内に浸透させる拠点として、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点(大学の教員・職員の組織的な研修等の実施機関)の認定を受けました。これは、各大学が持つ教育施設や機関を他大学にも供することで、大学教育全体としてより多様で高度な教育を目指すための制度であり、私立大学では2校目の認定となります。これにより、本学が目指している理工学教育のモデル構築に向けて、より活発な取り組みとなることが期待されています。「理工学教育共同利用拠点」では、理工系教員に必要な教育開発プログラムの体系化を目指しますが、その際、FDを広い意味での理工系教員能力開発(PD: Professional Development)プログラムと捉え、大きく分けて3領域のプログラムを実施しています。

教育能力開発プログラム(ED: Educational Development)

- 授業外学修を促すシラバスの書き方ワークショップ
- 学生主体の授業運営手法ワークショップ(大学教育再生加速プログラムの補助を受けて実施) 他、16プログラム

研究能力開発プログラム(RD: Research Development)

- 研究内容を分かりやすい言葉で伝えるためのワークショップ他、2プログラム

マネジメント能力開発プログラム(MD: Management Development)

- 産学連携の知的財産マネジメント研修 他、4プログラム



学生主体の授業運営手法ワークショップ

FD支援活動への学生参画

- SCOT^{*1}育成のための研修および一般教員へのSCOT利用促進

組織支援のFD・SDプログラム

- FD・SD講演会 ● 新任教職員研修会 ● 入職3年目以内教員フォローアップ研修

また、全国私立大学FD連携フォーラムやSPOD^{*2}フォーラムなどの優れたプログラムを教職員に紹介し、参加希望者には旅費などの補助をしています。

※1 SCOT=Students Consulting on Teaching(大学の授業に関連した基本的知識、授業コンサルティングに必要な技術、SCOTとしての責任感や態度を身につける研修を受け、審査・承認された学生)

※2 SPOD=Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) FD=Faculty Development(教員の授業・方法の改善、向上の取り組み) SD=Staff Development(職員的能力開発の取り組み)

クラブ・サークル活動

芝浦工業大学には約120団体ものクラブ・サークルがあり、学生の課外活動を積極的にバックアップしています。また、課外活動で活躍する団体・個人を表彰する制度や、課外活動で使う備品の購入を援助する制度を用意して、学生個人を成長させる機会を設けています。

体育会 陸上競技部

2018(平成30)年1月2日、関東学生連合チームのメンバーとして本学史上初の快挙となる第94回箱根駅伝(往路1区:大手町~鶴見)への出場を果たしました。



体育会 芝浦工業大学 Formula Racing

学生フォーミュラ大会に向けて設計・製作を行っています。2017(平成29)年度、「第15回全日本学生フォーミュラ大会」において全94チーム中過去最高位である総合2位を獲得しました。



文化会 Team Birdman Trial

毎年琵琶湖で開催される「鳥人間コンテスト」での長距離飛行、上位入賞を目指し、飛行機の設計から制作までを行っています。本学伝統の2人乗りでの優勝を目指します。2017(平成29)年の大会ではチーム新記録の6,625mを飛行しました。



学生プロジェクト

芝浦工業大学では、「学生プロジェクト」という制度を設け、学生の積極的な課外活動を支援しています。これは学生チームが、自由に活動テーマを決め、企画・運営する活動に対し、1プロジェクトあたり50万円を上限に大学が資金援助をするというものです。大学の外に出て社会と協働するプロジェクトも多く、これらを通じて建学の精神「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を実践する場にもなっています。

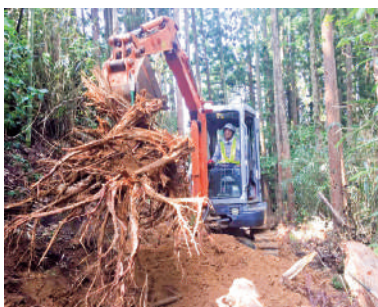
すみだの ‘巣’づくりプロジェクト

墨田区の木造密集市街地で、まちの魅力を守りながら福祉・医療、地域住民、商店街など多くの人と連携し、防災相談会や防災意識を高める地域イベントやものづくり活動を行っています。



よねさきの丘プロジェクト

岩手県陸前高田市出身の学生を代表に、岩手県陸前高田市米崎地区の丘陵地において、防災意識の向上や地域コミュニティを形成することを目的として、東屋の建設を設計から施工まで行っています。



ものづくり×クリエイティブ ×アート Shiba Lab

インタラクティブアート作品などを制作し、イベントなどで人を楽しませる取り組みを行っています。体験してもらうだけでなく技術を公開して作る楽しさを広げていくことも目指しています。



生涯学習の取り組み

社会貢献の一環として、誰もが学べる公開講座を年間約90講座開講し、約4,000人の受講者がいます。芝浦工業大学の教育・研究成果に触れることができる講座をはじめ、語学講座、資格対策講座なども実施しています。また、小中学生を対象に、工学・科学への関心を高めることをねらいとした実験講座やロボットセミナーなどの体験型講座も開講しています。

開講講座の一例

■ オープンテクノカレッジ (一般向け)

- 人体の秘密
- 原子力発電所事故の現状と今後“2018”
- 体感！土木の現場最前線！！
- 2020年のおもてなし
- 目指そう！語学ボランティア

■ オープンテクノキッズ (子ども向け)

- 生まれ！未来の建築家
- わくわく科学実験
- マンツーマンで学ぶ！プログラミング

■ ロボットセミナー

- LED花火を作ろう
- 親子で作ろうロボットセミナー
- やさしいマイコン入門



オープンテクノキッズ



ロボットセミナー

地域連携の取り組み

地域と共にある大学として、積極的に地域連携に取り組んでいます。

大宮キャンパスで5月に開催される「大宮祭」、豊洲キャンパスで11月に開催される「芝浦祭」は、学生が主体となって日頃の活動の成果を発表し、模擬店の出店などでも住民の方々との交流を図っています。またキャンパス近くの文化センターや小学校にも出張講座を開講し、地域住民の方に大学の知を還元するとともに学生と子どもたちとの交流も図っています。

さらに、豊洲キャンパスに併設されている豊洲運河の栈橋や附属中高近くの栈橋を活用した「船カフェ」や「豊洲水彩まつり」、芝浦キャンパスでの「芝浦運河まつり」などを地域の方々と共に開催し、大学の立地を生かしたまちづくりにも参画しています。



豊洲キャンパスで開催している「芝浦祭」



豊洲水彩まつり

卒業生支援

■ ホームカミング・デー

毎年、卒業生の1日里帰り企画「ホームカミング・デー」を実施しています。同窓生が旧交をあたためる懇親会のほか、卒業生が大学時代の思い出の品を出展し、審査員と来場者による投票でグランプリを決定する企画「芝浦お宝鑑定 SHIBA-1 グランプリ」や現役学生の活動成果の披露など、大学の“今”と“昔”を体験できる1日となっています。



ホームカミング・デーの様子

■ 里帰りゼミ

在学中にゼミ指導を行った教員と卒業生による知的交流活動を促進するため、大学が情報交換、研究活動に係る援助金を支給しています。卒業生の母校への帰属意識を高め、研修会などを通じて両者の育成を促進することを目的としています。

■ 芝浦技術士会

わが国が21世紀の目標に掲げる「科学技術創造立国」の実現に向けて、技術士制度の重要性が高まっています。技術士は日本の5大国家資格の一つであり、海外での活動には不可欠な資格となります。「技術士」の資格取得者増を目的に、日本技術士会と連携し、2008（平成20）年に「芝浦技術士会」を発足しました。その後、大学技術士会連絡協議会や企業内技術士交流会にも加入し連携を図ることで活動の幅を広げています。技術士の一次試験、二次試験対策講座や技術研鑽講座などを通して世界で活躍する技術者・研究者を養成することで、大学の発展と社会貢献を目指しています。

広報活動

■ さまざまなメディアで情報を発信

芝浦工業大学の教育研究その他の取り組みを多くの方々に知っていただくため、Webサイトのほか、Facebook、Twitter、LINE@、Instagramなどソーシャルメディアとの連携を取り入れつつ、タイムリーな情報の発信を行っています。

また法人の取り組みをより知っていただくため、広報誌「芝浦」を卒業生、保護者の方々に年4回送付しています。

2017（平成29）年度より海外へ本学をアピールするため英語特設サイト（ランディングページ）を公開しています。



広報誌「芝浦」

英語特設サイト
（ランディングページ）

<https://www.facebook.com/shibaura>



@sit_pr_staff



@shibaurait



@shibaura_instituteoftechnology



芝浦工業大学Webサイト

芝浦工業大学附属中学高等学校

校長あいさつ

中高大連携で世界をリードする理工系人材を育成

校長 大坪 隆明

本校は、1922(大正11)年に鉄道省によって創設された東京鐵道中学がルーツです。途中、東京育英中学、東京育英高等学校と校名は変わり、1953(昭和28)年に学校法人芝浦学園(現在の学校法人芝浦工業大学)が経営を引き継ぎ、芝浦工業大学高等学校となりました。さらに1982(昭和57)年には板橋区坂下への校舎移転と同時に中学校課程を新設しました。

昨年4月、大学のメインキャンパスがある江東区新豊洲地区に移転。同時に校名に「附属」を加えることで、大学との一体感を高め、中学-高校-大学と芝浦の名で世界で活躍する技術者・研究者を育てていくという本校の教育目標を鮮明にしました。芝浦工業大学へは毎年約45%の生徒が推薦入学しており、それを含めて現役で大学に進学する者のうち約4分の3が理工系学部に進学するという、日本でも有数の理工系進学校です。

工科系大学の附属校でしかできない実験・実習・製作を大学との連携により実現。STEAM教育(Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics)を強力に推進する日本でも有数の学校となっています。中学課程ではものづくりの楽しさを教えると同時に日本語のコミュニケーション力を育成を重視。高校では数理の基礎学力に加え、グローバル化を推進する大学と歩調を合わせた国際化の推進と英語力を強化しています。また全校でAI社会に対応した情報教育を取り入れ、次の時代のイノベーションをリードする生徒を育てていくのが本校の使命です。



新豊洲校舎

教育の特色

理系教育・連携教育

中学生では「ものづくりマインドを育てる」という視点から、学年全員でものづくりを体験します。中学1年の「工学わくわく講座」ではバスタブリッジ、中学2年の「ロボット入門講座」ではビートル型ロボットを、そして中学3年の「ものづくり講座」ではいくつかのテーマに分かれて製作を行います。いずれも大学の教授の指導のもと、大学生の補助を受けながら大学のキャンパス内で実施されています。生徒たちはものづくりの楽しさを体験するだけでなく、芝浦ファミリーの一員であることも実感することになります。また昨年度より高校入学生向けに「Arts & Tech」というプログラムがスタート。ライトレーサーやスターリングエンジンなどの製作に挑戦します。さらに大学見学会、理系講座など充実したキャリア教育も、芝浦にしかない取り組みといえます。



Arts & Tech

言語・グローバル教育

中学男子が苦手なことばによるコミュニケーションを鍛えるため、中学1・2年次に「ランゲージアワー」という日本語運用の授業を通常教科とは別に実施しています。また上級学年では外部から専門講師を招いた「話し方講座」で、傾聴と表現手法を鍛えます。英語はネイティブスピーカー教員による対話中心の少人数クラスを展開。中学3年ではアメリカに2週間、高校入学生も2年次にカナダで1週間のホームステイを体験します。それにより本校生徒は全員が海外を体験して進学します。芝浦工業大学進学者はさらに3カ月のアメリカ短期留学やセブ島でのプログラミング&英会話研修に参加できます。これらは株式会社エスアイテックなどから資金的支援を受けたプログラムです。生徒は一歩進んだ海外経験を積み、大学生活や就職後もその成果を発揮することができます。



英語授業

生徒の活動・活躍

■ 運動系クラブの活躍

それぞれのクラブが、目標に向かって日々練習に励んでいます。その中でも、水泳部が2017(平成29)年のインターハイで200m・400m個人メドレー2冠を達成し、東京都新人戦では200mメドレーリレーで7位に入賞しました。また、弓道部が中学校、高等学校それぞれで全国大会に出場しており、全国レベルで活躍する部活動が増えつつあります。これ以外にも、中学テニス部は都大会3回戦に進出、高校テニス部も上位に進出し活躍しています。ゴルフ部は全国高等学校ゴルフ選手権大会関東秋季大会に3年連続で出場など、成果を残しています。



■ 文化系クラブの活躍

本校の文化系クラブは他校と比較しても、クラブの数や活動内容、参加人数、受賞歴等から活気を呈していることがわかります。特に、電子技術研究部はWRO Japan 2017全国大会において中学高校ダブル全国優勝を果たしました。目標は世界に向いています。また、鉄道研究部が全国高等学校鉄道模型コンテストにおいて、HO車両部門で理事長特別賞を受賞するなど年々その活動の規模を広げ、評価を得ています。理科部や吹奏楽部の文化祭(芝生祭)における発表やパフォーマンスは毎年多くの見学者で埋め尽くされます。地域の活動にも積極的に参加し、地域交流に尽力しています。



入試結果

中学入試志願者は対前年比7.1%減少しました。これは、本校の評価と難易度が上昇し、下位層の受験者が敬遠したことによるものと考えられます。偏差値は上昇し、第一志望者も増加していることから、なお注目校となっています。実質倍率は第1回から第3回の入試の平均で4.7倍(前年度4.6倍)と上昇。新しく始めた複数回受験者を対象とした第一志望者入試では、エントリー229人、合格者13人を出し、本校の望む生徒像を示すことができました。移転効果だけではなく、教育内容への評価がうかがわれ、受験生の質的向上が見られます。

芝浦工業大学への進学を前提とした新しい高校入試も2年目となりました。昨年度の大幅な志願者増を受け、今年度は132人と微減はしたものの、推薦入試で男子の出願条件を1ポイント引き上げたため、実質的には志願者数が増加したものと考えられます。また、女子の志願者についても、ほぼ前年並みの水準を維持することができました。今後は、女子生徒募集と高校入試全体の知名度向上への対策を検討しています。

豊洲への移転発表から5年、移転1年目、課題もありながら、順調に教育内容の浸透と知名度の上昇が進んでいます。

(単位:人数)

学校	募集定員	志願者数	合格者数
中学校	160	1,321	223
高等学校	50	132 (24)	68 (21)

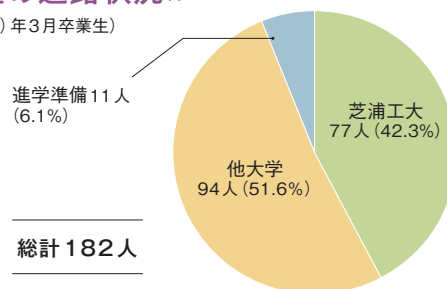
※()は女子数を表す

進路状況

2018(平成30)年3月卒業生全体における芝浦工業大学への進学率は42.3%(工学部43人、システム理工学部16人、デザイン工学部4人、建築学部14人、計77人)でした。他大学進学率は51.6%(94人)でした。合格実績として、10人が国公立大学に合格、早慶上智理科大に15人が合格、GMARCH[®]には18人が合格しています。

《現役生の進路状況》

(2018(平成30)年3月卒業生)



《他大学のうち主な進学先(抜粋)》

北海道大学・筑波大学・埼玉大学・電気通信大学・東京海洋大学・信州大学・琉球大学・早稲田大学・慶應義塾大学・上智大学・東京理科大学など

※ GMARCHとは、以下の大学の総称である。

学習院大学(G)・明治大学(M)・青山学院大学(A)・立教大学(R)・中央大学(C)・法政大学(H)

▶早慶上智大に次ぐ難易度ランクに位置する、首都圏の有力人気私立大学群を表す受験業界用語。

芝浦工業大学柏中学高等学校

校長あいさつ

建学の精神「創造性の開発と個性の発揮」のもとで、自ら学び、自ら「育つ」6年間

校長 野村 春路

本校は芝浦工業大学の伝統を踏まえ、1980（昭和55）年に新たな高校教育の創造をめざして柏市増尾の地に創設されました。1990（平成2）年から男女共学とし、1999（平成11）年に中学校を開校いたしました。2018（平成30）年春に、新入生として高校39期生301人、中学20期生194人を迎えました。さて、社会は大きく変わろうとしています。2030年頃には、人工知能（AI）が人間と同等の認知、判別能力をそなえると予測されており、それにより広範囲にわたる分野に大きな変革をもたらすと考えられます。また、IT革命が世界を瞬間にして結び付け、市場経済のもとで、世界のグローバル化が加速しました。

その中で学校教育の現場では、「育てること」と「育つこと」が同時に行われているのですが、本校では生徒が自分で「育つ」機会を、教員が授業、学校行事、生徒会活動、クラブ活動など、様々な教育活動の中で点検・意識化し、生徒が責任を持って行動できる場面を作って行く、つまり自分で「育つ」場面を増やすことを基本方針に置きました。

また、自ら「育つ」ことを促進するための新たな学習スタイルが、能動的な学修（アクティブ・ラーニング）であり、本校ではこれを具体的に進めるための指標として、「SK学習ルーブリック（評価基準表）」を作成しました。これは将来必要となる様々なジェネリック・スキルのうち、「自分に向かった能力」・「対象に向かった能力」・「他者に向かった能力」の3つの大項目を設定し、このルーブリックを使いながら、主体的に探究して行く活動を、具体的に促進できるように工夫しています。

この方針により、人工知能をはじめとした技術革新によって大きく変わって行く社会、多様なグローバル社会に放り出されても、自分で歩いて行ける生徒を育成するのが本校の使命であります。

私たちは力を合わせ、自由闊達な芝柏の学校風土をより堅固なものとし、建学の精神である「個性」と「創造性」を実社会で思う存分活かせる生徒の育成に力を尽くして参ります。



教育の特色

総合的な教養力と受験力の向上につながる教育

本校は、進学を重視し、地域に愛される学校を目指すとともに、創意あふれる授業を通して生徒に幅広い視野と教養を身につけさせ、「創造性の開発と個性の発揮」の教育目標を担うにふさわしい健康的で人間性豊かな生徒の育成を目指しています。さらに、総合的な教養力や人格を高めるべく、授業以外のさまざまな活動をきめ細かく織り込んだ教育を実践しています。

また、新入生を対象に毎年4月に行う研修をはじめとした「自学自習」習慣を

全生徒に身につけさせる取り組みを学校を挙げて推進しています。難関大受験に向けて十分な指導時間を確保しつつ、「SK学習ルーブリック（評価基準表）」も活用しながら自ら目標を立て、現状を冷静に見極めたうえで、目標達成に向けて己の頭で具体的対応策を考え行動に移すという、今後の自己実現に欠かせない能力の涵養にも努めています。

自己実現を支援するカリキュラムの骨子

中高6年間の 総体系

中高6年間で2年ごとに分け、「ホップ」・「ステップ」・「ジャンプ」の3段階で進路実現を目指します。

「ホップ」期（中学1・2年）：入試成績優秀者を「グローバル・サイエンスクラス」に集めますが、全クラス国数英を中心に基礎学力を涵養し、学習習慣と意欲を身につけ、学力の土台を根付かせます。教科外として、環境理科教育としてのグリーンスクール、日本の歴史と伝統に触れる奈良京都研修、文化祭や運動会などがあります。

「ステップ」期（中学3年・高校1年）：自分の「夢」を目標という具体的な形にします。さまざまな学校活動・行事において、「サイエンス・アクティブラーニング・グローバル」の教育テーマの総仕上げを行う時期にもあてます。教科

高校3年間の 体系

併設中学校からの連絡進学生（中入生）と高校からの入学生（高入生）は、1年入学時点での国数英の進度に差があるため、1年次は、当初より特長的要素を組み込んで運営する「グローバル・サイエンスクラス」を除き、原則的に別クラス編制となります。高入生は毎朝25分間のモーニングレッスンにおいて国数英をより多く学習する

外として、九州研修旅行、自学自習研修などがあります。なお、「グローバル・サイエンスクラス」は所属メンバーの入替を経て、最難関大を目指す生徒のためのクラスとして本格運営されることになります。

「ジャンプ」期（高校2・3年）：文理に分けますが、目標の通過点である大学受験を真摯に意識させます。特に高校3年次においては、本校独自のカリキュラムの下、各自の受験科目に合わせた学習に取り組みさせます。教科外として、オーストラリア海外研修などがあります。



ことで進度差を埋めます。

2年次に文系・理系に分かれるところで、志望系に基づいたクラス編制としますが、一部科目では習熟度別授業を取り入れ、きめ細かな学習指導を行います。3年次には、各人各様の個別コース制ともいべききめ細かな選択授業を少人数で展開し、進路目標の実現を図ります。

生徒の活動・活躍

■ 全国中学高校Webコンテスト

中学2年から高校2年まで、「全国中学高校Webコンテスト」に参加しています

学校インターネット教育推進協会主催のこのコンテストは、3人から5人でチームを作り、「自分たちが興味を持ったテーマを他者が学ぶのに有用なウェブの特性を活かした教材」を作成し、プレゼンテーションを含めてその出来栄を競う現代的かつ知的なPBLプログラムです。これまで18回の参加で5回の全国1位を獲得するなど、多くの生徒が上位入賞を果たしています。2017（平成29）年度は、通販サイトによる消費を支える物流業界の人手不足や再配達問題などに取り組み、その解決策を探求した高校1年（現高校2年）男子4人のチームによる「物流の今と未来」が全国第三位の「経済産業大臣賞・プラチナ賞」に輝きました。



経済産業大臣賞を受賞したWebサイト

■ クラブ活動

多くの生徒が放課後のクラブ活動に属し、積極的に活動しています

2017（平成29）年度は水泳部の高校2年（現高校3年）中村友美さんがアジアエージグループ選手権において、日本代表13名の一員に選出。スターティングメンバーとして定着し、第3戦のウズベキスタン戦では先制点を挙げるなど活躍しました。また、水泳部女子全日本ユース(U-15)水球選手権において千葉県選抜チームに本校生徒7人が選抜。チームは第2位となり、生徒1人がベスト7に選出されました。同じく水球の中学男子チームおよび女子チームがそれぞれ3月に行われた全国大会に出場しています。高校陸上競技部では男子5000m競歩で生徒1人がインターハイに出場しました。近年整備の進む校舎グラウンドで活動する部も躍進。中学サッカー部は柏市総合体育大会で8年ぶりの優勝を収め、県大会に出場。高校サッカー部は全国高校サッカー選手権大会千葉県大会の決勝トーナメントに進出。千葉県高校新人サッカー大会では学校初となる県ベスト8に入りました。高校ラグビー部は新人戦千葉県大会兼関東新人大会予選において県第5位の成績を収めました。

その他にも高校演劇部は初出場の千葉県高等学校演劇研究中央発表会で4位に当たる優秀賞第3席を受賞するなど、生徒たちはさまざまな分野で活躍しました。



アジアエージ水球大会
日本代表の中村さん

入試結果

中学校については昨年同様、第1回および第2回入学試験ではグローバル・サイエンスクラス(1クラス)と通常クラス(4クラス)に分けて合格発表を行いました。出題に際しては2020年度の大学入試改革における新傾向を反映させ、さらに英語能力を有する受験者に対して行う英語入試では、口頭試問に加えリスニングテストを実施するなど、さまざまな取り組みも行いました。全体の志願者数は7.8%増加し、最終的には180人の募集定員に対して194人が入学しました。

高等学校については、昨年同様に3教科入試と5教科入試を実施しましたが、今年から英語の試験で筆記に加えリスニングを課しています。さらにCEFR B1程度(英検2級等)の資格を有する受験者は英語を見なし満点として取り扱う英語資格優遇制度も導入し、グローバル人材育成につながる取り組みを強化しました。志願者数は前年に比べ10.1%増加し、最終的に連絡進学生176人・一般入学生125人の計301人が入学することになりました。

(単位：人数)

学校	募集定員	志願者数	合格者数
中学校	180	2,208	523
高等学校	120	1,079	461

※高等学校については、中学校からの内部(連絡)進学者数を除く。

進路状況

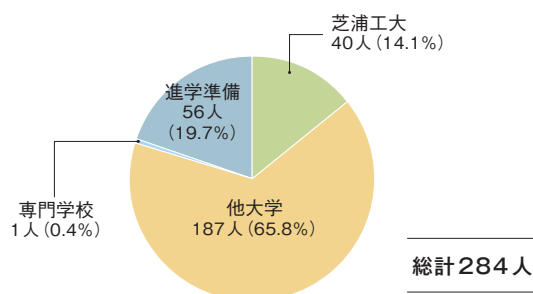
卒業生284人のうち、国公立大現役合格37人、国公立早慶上理GMARCHいずれかの大学の合格を掴んだ生徒は124人で、GMARCH以上の実合格率48%(芝浦工大推薦を除く)と前年と比べ若干の低下となりました。1期生が卒業を迎えたグローバル・サイエンスクラスからは、京都大学に現役合格3人、ロンドン大学UCLに1名現役進学するなど、概ね健闘と言える結果となりました。

《主な進学先(抜粋)》

京都大学・東京工業大学・一橋大学・東北大学・名古屋大学・大阪大学・横浜国立大学・筑波大学・千葉大学・東京学芸大学・首都大学東京・早稲田大学・慶應義塾大学・上智大学・東京理科大学・明治大学・青山学院大学・立教大学・法政大学・中央大学・学習院大学など

《現役生の進路状況》

(2018(平成30)年3月卒業生)



事業報告書 2017

I. 法人の概要

学校設立の目的等	33
教育(研究)の特色	34
設置する学校・学部・学科等	34
設置する学校・学部・学科等の学生・生徒の状況	35
設置する学校・学部・学科の入試結果	36
役員の概要	37
評議員の概要	38
教職員の概要	39
施設等の状況	40

II. 事業の概要

2017(平成29)年度事業報告	41
1.改革路線の継続	41
2.教育研究改革	42
3.学生募集とキャリア教育	43
4.学生支援の充実強化	44
5.中高大連携強化と理系女子の育成	45
6.キャンパス施設整備計画	45
7.附属・併設校強化	46
8.地域貢献・社会貢献	46

III. 財務の概要

2017(平成29)年度 決算の概要	47
資金収支計算書	48
事業活動収支計算書	49
貸借対照表	50
学校別 事業活動収支内訳表	52
経年比較 資金収支計算書	53
経年比較 事業活動収支計算書	54
経年比較 貸借対照表	55
経年比較 主な財務比率	55
その他	
参考 財産目録の概要	59

I. 法人の概要

学校設立の目的等

芝浦工業大学

芝浦工業大学は、教育基本法および学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く理工学の研究を行い、世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工学教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的としています。

芝浦工業大学大学院

芝浦工業大学大学院は、理工学に関する理論および応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的としています。

芝浦工業大学専門職大学院

芝浦工業大学専門職大学院は、技術と経営について研究し、実践によってその深奥を究め、職業等に必要の高度の専門知識および実践能力を養い、日本の技術の発展と振興を図り、文化の進展に寄与することを目的としています。

芝浦工業大学附属高等学校

芝浦工業大学附属高等学校は、教育基本法および学校教育法に基づく併設型中高一貫校として、中学校を卒業した者に中学校教育の基礎の上に心身の発達に応じて高度な普通教育を施すことを目的としています。

芝浦工業大学柏高等学校

芝浦工業大学柏高等学校は、教育基本法および学校教育法の趣旨に従い、中学校教育の基礎の上に中学校を卒業した者に対し、高等普通教育を施すことを目的としています。

芝浦工業大学附属中学校

芝浦工業大学附属中学校は、教育基本法および学校教育法に基づく併設型中高一貫校として、小学校を卒業した者に小学校教育の基礎の上に心身の発達に応じて義務教育として行われる普通教育を施すことを目的としています。

芝浦工業大学柏中学校

芝浦工業大学柏中学校は、教育基本法および学校教育法の趣旨に従い、小学校教育の基礎の上に、心身の発達に応じて中等普通教育を施すことを目的としています。

教育(研究)の特色

芝浦工業大学は、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神として、1927(昭和2)年に有元史郎によって、東京高等工商学校として創立されました。以来、この建学の精神のもと、実践型技術者として社会に貢献できる多くの卒業生を輩出し、社会の発展に貢献してきました。

現在、本学は、工学だけではなく、理学やデザインの分野にも教育研究のフィールドを広げ、グローバル化を意識し「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成」を人材育成目標として教育研究を進めています。

今後も、実学重視という建学の精神を尊重しつつ、世界水準の理工学教育の実践と学生の学修成果の質保証を約束し、世界レベルの研究拠点形成と、地域との連携による学生参加型研究の実践、

また、いろいろな国籍や男女が共同で参画できる多様な環境の中で教育研究を進めることにより、複雑多様化するグローバル社会において、世界の維持発展とイノベーション創出に貢献できる学生の育成を目指します。

また、芝浦工業大学附属中学高等学校では、人格形成に大切な時期を男子の特徴と発達段階を見極め、6年間を3段階に分けて教育指導を行っています。前期は「英語・数学の基礎学力養成」、中期は「徹底した学習・進路指導」、後期は「進路目標に合ったコース選択」をそれぞれ特色としています。

芝浦工業大学柏中学高等学校では、「創造性の開発と個性の発揮」を建学の精神とし、「おおらかな進学校」をモットーに指導に取り組んでいます。

設置する学校・学部・学科等

(2017(平成29)年度)

設置する学校	開校年	学部・学科等	摘要
芝浦工業大学	1949(昭和24)年	工学部	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
	1991(平成3)年	システム工学部 ^{※1}	(大宮キャンパス) 〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307
	2009(平成21)年	デザイン工学部	(芝浦キャンパス) 〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14
	2017(平成29)年	建築学部	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
芝浦工業大学大学院	1963(昭和38)年	工学研究科修士課程 ^{※2}	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
	1995(平成7)年	工学研究科博士(後期)課程 ^{※2}	
	2003(平成15)年	工学マネジメント研究科	
芝浦工業大学附属高等学校 ^{※3}	1949(昭和24)年	全日制(普通科)	(芝浦工業大学附属中学高等学校 新豊洲校地) 〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7
芝浦工業大学柏高等学校	1980(昭和55)年	全日制(普通科)	(芝浦工業大学柏中学高等学校 柏校地) 〒277-0033 千葉県柏市増尾700
芝浦工業大学附属中学校 ^{※4}	1982(昭和57)年		(芝浦工業大学附属中学高等学校 新豊洲校地) 〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7
芝浦工業大学柏中学校	1999(平成11)年		(芝浦工業大学柏中学高等学校 柏校地) 〒277-0033 千葉県柏市増尾700

※1 システム工学部は2009(平成21)年4月にシステム理工学部に変更しました。

※2 工学研究科は2011(平成23)年4月に理工学研究科に変更しました。

※3 芝浦工業大学高等学校は2017(平成29)年4月に芝浦工業大学附属高等学校に変更しました。

※4 芝浦工業大学中学校は2017(平成29)年4月に芝浦工業大学附属中学校に変更しました。

設置する学校・学部・学科等の学生・生徒の状況

(学生・生徒・入学者数は2017(平成29)年5月1日現在)

学部

(単位：人)

芝浦工業大学(学部)	学 科	入学定員	収容定員	学生数	入学者数
工学部	機械工学科	115	415	461	118
	機械機能工学科	115	415	487	140
	材料工学科	105	375	429	135
	応用化学科	105	375	431	128
	電気工学科	105	375	439	122
	通信工学科	105	375	425	114
	電子工学科	105	375	423	122
	土木工学科	105	375	437	130
	建築学科	-	300	352	-
	建築工学科	-	300	356	-
	情報工学科	115	415	465	132
システム理工学部	電子情報システム学科	115	415	467	125
	機械制御システム学科	90	330	369	91
	環境システム学科	90	330	386	94
	生命科学科	115	415	471	118
	数理科学科	75	285	312	79
建築学部	建築学科	240	960	270	270
デザイン工学部	デザイン工学科	160	580	648	175
計		1,860	7,410	7,628	2,093

大学院研究科

(単位：人)

芝浦工業大学(大学院研究科)	専 攻	入学定員	収容定員	学生数	入学者数
理工学研究科修士課程	電気電子情報工学専攻	100	200	240	133
	材料工学専攻	30	60	87	43
	応用化学専攻	20	40	62	43
	機械工学専攻	65	130	205	102
	建設工学専攻	90	180	241	116
	システム理工学専攻	50	100	155	76
	国際理工学専攻	10	20	9	9
理工学研究科博士(後期)課程	地域環境システム専攻	10	30	25	8
	機能制御システム専攻	8	24	46	16
工学マネジメント研究科専門職学位課程	工学マネジメント専攻	28	56	26	10
計		411	840	1,096	556

高等学校・中学校

(単位：人)

併設高等学校・中学校	入学定員	収容定員	生徒数	入学者数
芝浦工業大学附属高等学校	172	516	607	233
芝浦工業大学柏高等学校	296	888	851	284
芝浦工業大学附属中学校	160	480	501	165
芝浦工業大学柏中学校	180	540	570	199
計	808	2,424	2,529	881

設置する学校・学部・学科の入試結果 - 2018(平成30)年度入試 -

学部

(単位：人)

芝浦工業大学(学部)	学 科	募集人員	志願者数	合格者数
工学部	機械工学科	97	3,867	963
	機械機能工学科	97	2,168	650
	材料工学科	92	2,153	666
	応用化学科	92	2,477	844
	電気工学科	92	2,140	622
	電子工学科	92	1,975	569
	情報通信工学科	92	2,397	529
	情報工学科	97	3,611	635
	土木工学科(社会基盤コース)	70	1,526	431
	土木工学科(社会システムデザインコース)	20	528	164
システム理工学部	電子情報システム学科	93	2,294	559
	機械制御システム学科	71	1,413	457
	環境システム学科	76	1,435	471
	生命科学科(生命科学コース)	47	1,081	374
	生命科学科(生命医工学コース)	46	952	371
	数理科学科	58	1,110	433
デザイン工学部	デザイン工学科 生産・プロダクトデザイン系	72	1,761	288
	デザイン工学科 ロボティクス・情報デザイン系	72	1,534	335
建築学部	建築学科 APコース(先進的プロジェクトデザインコース)	20	923	132
	建築学科 SAコース(空間・建築デザインコース)	81	3,616	397
	建築学科 UAコース(都市・建築デザインコース)	81	2,773	425
計		1,558	41,734	10,315

※上記数字は一般入試に限ります。

大学院研究科

(単位：人)

芝浦工業大学(大学院研究科)	専 攻	募集人員	志願者数	合格者数
理工学研究科修士課程	電気電子情報工学専攻	100	130	112
	材料工学専攻	30	39	35
	応用化学専攻	20	47	39
	機械工学専攻	65	88	82
	建設工学専攻	90	165	145
	システム理工学専攻	50	96	80
	国際理工学専攻	10	4	4
理工学研究科博士(後期)課程	地域環境システム専攻	10	5	5
	機能制御システム専攻	8	12	12
計		383	586	514

高等学校・中学校

(単位：人)

併設高等学校・中学校	募集人員	志願者数	合格者数
芝浦工業大学附属高等学校	50	132	68
芝浦工業大学柏高等学校	120	1,079	461
芝浦工業大学附属中学校	160	1,321	223
芝浦工業大学柏中学校	180	2,208	529
計	510	4,740	1,281

役員概要

(2018(平成30)年3月31日現在)

定員数 理事12人 監事3人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	五十嵐 久也	常勤	平成15年6月 理事に就任 平成18年6月 理事に重任 平成21年6月 理事に重任 平成22年6月 学校法人芝浦工業大学理事長に就任 平成24年6月 学校法人芝浦工業大学理事長に重任 平成27年6月 学校法人芝浦工業大学理事長に重任
常務理事	村上 雅人	常勤	平成24年4月 理事に就任 平成27年4月 理事に重任
専務理事	早乙女 徹	常勤	平成23年5月 理事に就任 平成27年7月 理事に重任(理事長補佐・危機管理担当)
常務理事	横田 壽	常勤	平成24年6月 理事に就任(財務担当) 平成27年6月 理事に重任(財務・学術情報担当)
常務理事	村上 公哉	常勤	平成21年6月 理事に就任(施設担当) 平成24年7月 理事に重任(総務担当) 平成27年6月 理事に重任(総務・ガバナンス改革担当)
常務理事	野口 一也	常勤	平成27年6月 理事に就任
理事	永山 勝久	常勤	平成21年9月 理事に就任(入試・広報・国際担当) 平成24年6月 理事に重任(施設担当) 平成27年6月 理事に重任(施設担当)
理事	三浦 昌生	常勤	平成24年6月 理事に就任(就職担当) 平成27年6月 理事に重任(入試・就職担当)
理事	大坪 隆明	常勤	平成27年6月 理事に就任(中学・高等学校担当)
理事	鈴見 健夫	常勤	平成21年6月 理事に就任 平成24年6月 理事に重任 平成27年6月 理事に重任 (事業担当、株式会社エスアイテック代表取締役、芝浦工業大学校友会会長)
理事	村上 愛三	非常勤	平成24年6月 理事に就任 平成27年6月 理事に重任(弁護士 東京弁護士会)
理事	岩瀬 吉廣	非常勤	平成24年6月 理事に就任 平成27年6月 理事に重任(阪神電気鉄道株式会社顧問)
監事	大室 康一	常勤	平成27年10月 監事に就任(株式会社大室産業代表取締役社長)
監事	秋山 豪	常勤	平成27年6月 監事に就任(鹿島建設株式会社顧問)
監事	秋山 進	常勤	平成27年6月 監事に就任 (プリンシプル・コンサルティング・グループ株式会社代表取締役)

評議員の概要

(2018(平成30)年3月31日現在)

評議員定数 45人

区分	氏名	所属・勤務先
評議員	村上 雅人	芝浦工業大学 学長
評議員	山田 純	芝浦工業大学 工学部長
評議員	渡部 英二	芝浦工業大学 システム理工学部長
評議員	古屋 繁	芝浦工業大学 デザイン工学部長
評議員	堀越 英嗣	芝浦工業大学 建築学部長
評議員	大坪 隆明	芝浦工業大学 附属中学高等学校 校長
評議員	野村 春路	芝浦工業大学 柏中学高等学校 校長
評議員	西川 宏之	芝浦工業大学 電気工学科 教授
評議員	高崎 明人	芝浦工業大学 理工学研究科長
評議員	守田 優	芝浦工業大学 副学長
評議員	上岡 英史	芝浦工業大学 通信工学科 教授
評議員	ミリアラ ムラリダ	芝浦工業大学 理工学研究科 教授
評議員	新井 剛	芝浦工業大学 材料工学科 教授
評議員	井上 雅裕	芝浦工業大学 副学長
評議員	川上 幸男	芝浦工業大学 機械制御システム学科 教授
評議員	三好 匠	芝浦工業大学 電子情報システム学科 教授
評議員	志村 秀明	芝浦工業大学 建築学科 教授
評議員	秋元 孝之	芝浦工業大学 建築学科 教授
評議員	橋田 規子	芝浦工業大学 デザイン工学科 教授
評議員	高橋 英男	芝浦工業大学 附属中学高等学校 中学校 教頭
評議員	久保田 剛司	芝浦工業大学 柏中学高等学校 副校長
評議員	早乙女 徹	学校法人芝浦工業大学 専務理事
評議員	相沢 真一	学校法人芝浦工業大学 大宮学事部 学事課
評議員	山下 修	学校法人芝浦工業大学 経営企画部長
評議員	丁 龍鎮	学校法人芝浦工業大学 大宮学事部長
評議員	満重 信之	学校法人芝浦工業大学 芝浦学事部長
評議員	吉川 倫子	学校法人芝浦工業大学 豊洲学事部長
評議員	大丸 征史	芝浦工業大学校友会 東京総支部長
評議員	鈴見 健夫	株式会社エスアイテック 代表取締役・芝浦工業大学校友会会長
評議員	谷川 潮	いすゞ車体株式会社 社長補佐
評議員	中村 宏	サンエス工業株式会社 会長
評議員	吉池 富士夫	飯田グループホールディングス株式会社 執行役員
評議員	加藤 善次郎	株式会社日本環境設計 代表取締役
評議員	平井 良樹	株式会社ひら井 代表取締役社長
評議員	福井 幸博	北陸産業活性化センター 北陸ライフサイエンスクラスター推進室 北陸ライフサイエンスクラスター推進室長
評議員	上村 多恵子	京南倉庫株式会社 代表取締役社長
評議員	岩瀬 吉廣	阪神電気鉄道株式会社 顧問
評議員	木村 増夫	学校法人上智学院 理事長補佐
評議員	向井 眞一	明治大学 評議員
評議員	朱田 光洋	朱田税務会計事務所 所長
評議員	高橋 哲夫	北区環境大学 名誉学長
評議員	野口 博	静岡理工科大学 学長
評議員	山崎 治平	株式会社UR コミュニティ 代表取締役社長
評議員	小林 浩	リクルート進学総研 所長
評議員	渡辺 秀雄	株式会社ゼンショーホールディングス 常勤監査役

教職員の概要

(2017(平成29)年5月1日現在)

1. 大学教員数

(単位：人)

所属	資格	専任					非常勤	計
		教授	准教授	講師	助教	計		
	学長	1	0	0	0	1	0	1
	副学長	2	0	0	0	2	0	2
工学部	機械工学科	8	4	1	0	13	7	20
	機械機能工学科	8	5	0	0	13	10	23
	材料工学科	10	2	0	0	12	5	17
	応用化学科	10	2	0	0	12	6	18
	電気工学科	10	1	1	0	12	14	26
	通信工学科	8	3	0	1	12	4	16
	電子工学科	8	3	0	1	12	8	20
	土木工学科	8	3	0	0	11	9	20
	情報工学科	8	4	0	0	12	3	15
	共通学群	19	14	2	2	37	138	175
システム 理工学部	電子情報システム学科	14	1	0	1	16	10	26
	機械制御システム学科	9	5	0	0	14	7	21
	環境システム学科	11	2	0	0	13	31	44
	生命科学科	8	5	0	2	15	8	23
	数理科学科	8	3	0	1	12	8	20
デザイン工学部	デザイン工学科	12	8	0	4	24	47	71
建築学部	建築学科	30	3	1	0	34	33	67
大学院	理工学研究科	4	1	0	0	5	19	24
	工学マネジメント研究科	8	2	0	0	10	6	16
その他	教育イノベーション推進センター	5	7	14	0	26	2	28
	SIT総研、先端工学研究機構	1	1	0	0	2	0	2
	マレーシア高等教育プログラム	4	1	0	0	5	0	5
合計		214	80	19	12	325	375	700

※専任者には、特別任用教員、シニア教員(いずれも有期雇用者)を含んでいます。

※学長は工学部材料工学科・教授、副学長は土木工学科・教授及び電子情報システム学科・教授。当該学科からは除外しています。

※建築学科、建築工学科は建築学部を集約しています。

2. 併設高等学校・中学校

(単位：人)

所属	資格	教諭	非常勤	計
高等学校	芝浦工業大学附属高等学校	32	15	47
	芝浦工業大学柏高等学校	45	24	69
中学校	芝浦工業大学附属中学校	31	9	40
	芝浦工業大学柏中学校	32	9	41
合計		140	57	197

※特任を含む

3. 職員数

(単位：人)

所属	資格	専任	非専任			計	派遣職員
			ポスドク	TA・RA・LF	臨時職員		
豊洲校舎		102	9	274	49	434	26
大宮校舎		38	2	84	40	164	21
芝浦校舎		45	1	16	8	70	18
新豊洲校舎		5	0	0	8	13	2
柏校舎		4	0	0	3	7	2
合計		194	12	374	108	688	69

※専任者には、特定職員、シニア職員(いずれも有期雇用者)を含んでいます。 ※ポスドク・TA・RA・LFは、大学院の各研究科に所属しています。

施設等の状況

(2018(平成30)年3月31日現在)

1. 現有施設の所在地等の説明

所在地	施設等	面積等 (㎡)	取得価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	摘要
東京都江東区豊洲3丁目7番5	校地	30,000.00	8,821,152	8,821,152	建築学部1・2年、工学部3・4年、大学院理工学研究科が使用している。
	校舎2棟他	61,890.42	24,038,068	15,494,605	
東京都青海2丁目7番4号	研究施設(借室)	-	302	239	研究施設として1室(88.58㎡)借用。本学資産は追加した付属設備部分。
埼玉県さいたま市見沼区 大字深作307番地	校地	170,227.05	1,825,346	1,825,346	工学部1・2年、デザイン工学部1・2年、システム理工学部、大学院理工学研究科が使用している。仮換地での校地面積は165,258.05㎡。
	校舎13棟他	64,171.52	19,937,861	10,756,188	
埼玉県さいたま市見沼区 東大宮2丁目4番3号	寄宿舎(借室)	-	6,337	5,253	男子学生寮として建物一括借用(敷地1,636.00㎡、建物2,388.41㎡)。本学資産は追加した付属設備部分。
埼玉県さいたま市西区 大字二ツ宮字岸ノ町113番地1	運動場管理施設用地 (区分所有)	124.50	8,684	8,684	大学、併設校が使用している。
	管理事務所 (区分所有)	59.61	10,907	5,683	
東京都港区芝浦3丁目9番14号	校地	2,624.00	395,251	395,251	デザイン工学部3・4年、大学院理工学研究科、工学マネジメント研究科および法人部門が使用している。
	校舎1棟	12,491.62	5,078,647	3,550,999	
千葉県柏市増尾700番地	校地	44,843.85	1,227,790	1,227,790	柏中学高等学校が使用している。 7,895.83㎡の借地面積を含んでいない。
	校舎8棟他	15,816.72	3,810,166	1,730,448	
東京都江東区豊洲6丁目2番7号	校地	17,026.34	6,228,249	6,228,249	附属中学高等学校が使用している。 仮換地での校地面積は14,499.09㎡。
	校舎3棟	18,087.80	6,373,595	6,075,116	
福島県南会津郡 南会津町高杖原740番	研修施設用地	7,404.00	73,639	73,639	2017年10月以降休館中。
	研修施設	3,992.20	1,171,441	563,583	

2. 2017(平成29)年度の主な施設の取得又は処分及び進捗状況

- 1) 豊洲キャンパス：GLC事業対応の居室用途変更およびサイン英文併記化を実施。
- 2) 大宮キャンパス：県道開通に伴い第二グラウンドにフェンス設置。弓道場にはトイレ新築。また道路構築物の越境があり弓道場脇一部の土地をさいたま市へ売却。総合グラウンドには電光掲示板を新設。
- 3) 柏中学高等学校：築30年を経た高校棟の地下水対策及び配管腐食改善工事を実施。第一グラウンドにLED夜間照明新設。
- 4) 板橋中高旧校地：附属中高として新豊洲に移転開校後、処分(売却)。
- 5) セミナーハウス：葉山は老朽化のため処分(売却)し、高杖は10月より休館中。

3. その他保有資産(図書、教具・校具及び備品)の説明

1) 図書

区分	冊数			価額(円)
	内国書(冊)	外国書(冊)	計(冊)	
図書	250,525	17,186	267,711	1,174,389,395
学術雑誌	19,779	18,427	38,206	104,895,204
計	270,304	35,613	305,917	1,279,284,599

2) 教具・校具及び備品

名称又は種類	数量(点)	価額(円)
教具・校具	79,476	4,274,694,254
備品	6,259	482,475,499
計	85,735	4,757,169,753

Ⅱ. 事業の概要

2017(平成29)年度事業報告

1. 改革路線の継続

本学の改革路線の中心はガバナンス改革にあります。現理事会は、経営ビジョンの根幹にガバナンス改革を掲げ、「学生のための大学経営」「創立100周年(2027年)に理工系私学のトップランナーへ」という目標実現に向け、ガバナンス改革を通じ各種経営課題を解決、改善を図るという改革路線を常に継続しています。2017(平成29)年度は、この路線を続ける中、下記の事業を遂行しました。

■ 理事選任方法見直し、新たな方法による評議員の選任

2017(平成29)年5月、職務上の理事を除き、その選任を選挙から推薦委員会による推薦方式に改め、私立学校法による業務決定機関である理事会が各種事業に取り組むに際し、安定性、継続性を確かにする仕組みとしました。また諮問機関である評議員会を構成する評議員(職務上の評議員、卒業生評議員を除く)の選任もすでに推薦委員会による推薦方式に改めており、2017(平成29)年11月、評議員を新たに選任しました。

■ 次期学長の選任等

芝浦工業大学の学長は、理事会との一体的な大学運営、強いリーダーシップによる学長付託型大学運営を実現するため、すでに選挙による選任から学長候補者選考委員会が候補者を推薦し理事会が決定する方式に改めています。はじめてこの方式により選任された村上雅人学長は、2017(平成29)年度末にその任期を終えましたが、同様の方式により、再度、学長に選任され、2018(平成30)年度から通算3期目の学長を務めることになりました。また学長のもとで教育研究に係る一貫した意思決定ラインを形成する副学長、各学部長、各研究科長についても、学長の推薦に基づき理事会が承認するとしており、村上学長の推薦をもとに、副学長、学部長、研究科長が決定されました。

■ 創立90周年記念事業

2017(平成29)年11月4日、本学は創立90周年を迎えました。これを100周年における飛躍に向けたステップと位置づけ、「創立100周年(2027年)に理工系私学のトップランナーへ」という目標実現のためのスタートラインとして、記念式典・祝賀会を11月1日に挙行了しました。当日は国内外から1,100人を超える出席者のもと、多くの祝意をいただいた他、数々の顕彰を行いました。特に海外からは、カリフォルニア大学アーバイン校、ポーランドアカデミー科学技術大学、東南アジア各国代表工科系大学コンソーシアム「SEATUC」加盟校などの協定校を招き、国際色を豊かにする中で、本学の未来に向かう強い意志を表し、かつ教職員、校友会、後援会その他関係者との使命を共有することで、創立100年へ向けて決意を新たにしました。

■ 新職員人事給与制度の実施

2017(平成29)年4月から新職員人事給与制度の運用を開始しました。従来からの主な変更点は、職能資格制度から職務等級制度に改めたことであり、管理監督職の資格等級と役割を連動させ、与えられた職務や役割に応じた資格等級とし、人事考課結果を報酬に反映させることで年功序列的不公平感をなくし、パフォーマンスの高い職員への待遇を厚くする報酬制度としました。事務職員に対する周知と新等級・新本俸への切り替えを終え、新しい人事給与考課に基づき期末手当(変動分反映)の支給、昇格、昇進、昇給などの決定を行いました。

■ 豊洲キャンパス二期工事計画の進展

豊洲キャンパスが竣工10年を経過し、大学を取り巻く環境も変わりつつあります。本学は国際化推進と大学院の充実を教育研究上の目標に置いており、2017(平成29)年4月に新設された建築学部が豊洲一貫教育を開始したことも加わり、豊洲キャンパスでは教室や研究施設の拡充が求められています。こうした状況を受け、2016(平成28)年7月に理事会・評議員会の承認を得て開始された豊洲キャンパス二期工事計画が進行しています。多くの学生、研究者にとってイノベティブな環境を作り、これまで以上に研究力強化に資する新校舎の建設をめざし、2017(平成29)年度は基本構想を整理し、基本設計に着手しました。豊洲キャンパス二期工事は、創立100周年記念事業と位置づけ、将来にわたり強靱な大学発展への礎を築くことを目的とした新棟建設としています。

■ 磐石な財政基盤構築

全ての施策の前提となる磐石な財政基盤構築について、これまで同様、中長期的財政見通しのもと計画的な財政運営を続けてきました。これにより、2017(平成29)年度もほぼ例年並み(9%程度)の経常収支差額比率(収入超過状態)を維持しています。なお2017(平成29)年度は、旧板橋校地・校舎や利用停止した葉山セミナーハウスの売却資金(約63億円)を得ることで多額の特別収支差額(約34億円)を計上しつつ、その資金をもって新豊洲校地・校舎取得のための借入金返済を開始しました。

2. 教育研究改革

■ Centennial SIT Action

芝浦工業大学は、創立100周年を迎える2027年にアジア工科大学トップ10に入るという目標を設定。世界に名だたるグローバル理工系大学へと成長するために「理工学教育日本一」「知と地の創造拠点」「グローバル理工学教育モデル校」「ダイバーシティ推進先進校」「教職協働トップランナー」の5つの取り組みを推進していくことを掲げ、これを「Centennial SIT Action」として宣言しました。

■ スーパーグローバル大学創成支援事業の推進

本事業の目標に対する進捗状況を適時把握し、その推進を図るため、SGU教学会議を定期的に開催し、教職協働で事業を進めています。4年度目となる2017(平成29)年度においても、国際産学官連携のアライアンスGTI(Global Technology Initiative)コンソーシアムを活用し、アクティブラーニング教育の一環として、海外協定校と展開してきたグローバルPBLを中心とする留学プログラムのさらなる拡充を図った結果、学生の海外派遣は過去最多で延べ約1,300人にも及びました。一方、外国人留学生の受け入れについては、アフリカの“ABEイニシアティブ”等の政府間プロジェクト、海外協定校からの交換留学、本学でのグローバルPBL実施などにより、過去最多1,297人となりました。

日本人学生の英語力向上に関する指標であるCEFRのB1レベル以上(TOEICスコア550以上に相当)の獲得者数は、2017(平成29)年度末までに2,100人を超える水準となりました。

また、前年度から引き続き、TOEIC高得点者への表彰の実施、スコアアップレッスンなども実施しました。

日本人と留学生の交流やダイバーシティ拡大をコンセプトとした施設「グローバルラーニングコモンズ」を大宮キャンパスに続いて豊洲キャンパスにも整備し、2017(平成29)年度から本格運用を始めています。

また、システム理工学部には国際コースを新設しました。専門分野を英語で学び、海外の大学で専門科目を受講し、英語での研究を進めるという先進的なカリキュラムでグローバル人材の育成を目指します。また、大学院に国際理工学専攻を新設し、英語による講義と研究指導を行っています。

これらグローバル化の取り組みが高い評価を得て、Times Higher Education発表のTHE Japan University Rankings 2018では前年の57位から48位にランクアップしています。

■ 大学教育再生加速プログラム(AP)の推進

2017(平成29)年度は、学部4年間の体系的・組織的アクティブラーニング改革、学修成果の可視化と学生の学修時間のPDCAサイクルによる保証、教育改革の推進体制の強化を掲げ、コースナンバリングの運用とこれを維持する学内体制を整備、質保証のための達成度評価基準と評価方法の策定などを教職協働で推進しました。

■ 学科名称の変更

情報通信技術を学び、IoTとAIの時代に貢献する人材を育成する通信工学科は、時代と共に変化する技術と学びの内容に合わせ、2018(平成30)年4月、「情報通信工学科」に名称変更します。

■ 研究活動の強化

創立100周年に向けた研究力強化として、「知と地の創造拠点の構築」を掲げ、「国際共同研究を通じた世界レベルの研究拠点形成」と「地域自治体や中小企業との共同研究を通じた社会貢献」を両輪とした方策を設定しました。具体的には、出口戦略を見据え、基礎研究→知的財産の形成→プロトタイピングまでを一貫通貫に推進し社会実装を目指す「芝浦型 Global Engineering Research Center (gERC)」の整備を推進します。

■ 教育改革に係わる外部資金獲得

2017(平成29)年度も、文部科学省私立大学等改革総合支援事業「教育の質的転換」「地域発展」「産業界・他大学との連携」「グローバル化」の4タイプに採択されました。本学は、JABEEに代わる内部質保証の取り組みとして、教学部門の各会議体で上記支援獲得に必要な情報を共有し改善に努め、5年連続タイプ1から4に選定されている唯一の大学です。

■ 工大サミット

日本の工科大学の国際化を推進し理工学教育の質保証を図るための具体策の一つとして、愛知工業大学、大阪工業大学、広島工業大学、福岡工業大学と共に「工大サミット」設立しました。新たに東北工業大学の参画も決定し、2018(平成30)年10月には豊洲キャンパスにおいて、第2回「工大サミット」を開催します。

3. 学生募集とキャリア教育

■ 学生募集

一般入試全体では延べ志願者が41,734名になり、本学史上最多の志願者数となりました。入試方式別では、特に英語資格・検定試験利用方式が増加し、学科別では名称変更を行った工学部情報通信工学科(旧工学部通信工学科)が志願者を大幅に増やしました。またダイバーシティの推進を目的に、2016(平成28)年度に引き続き女子学生及び外国人留学生増加のための施策を展開しました。女子学生増加のため、機械や電気・電子工学分野に強い関心と意欲をもつ女子生徒に向け、公募制推薦入試制度を設け、広く募集を行いました。その他、指定校推薦入試における女子高枠の拡大、オープンキャンパスでの女子生徒向け相談コーナー拡充などにより、女子の総延志願者数は過去最多となりました。一方、外国人留学生増加のため、首都圏の日本語学校への精力的な訪問や外国人特別入試における併願制度の新設などを行った結果、外国人留学生の総延志願者も過去最多となりました。これら近年の活動が評価され、日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先に贈られる「日本留学AWARDS」において私立大学理工系・東日本部門にノミネートされました。

■ キャリア教育

就職希望者の就職率100%を目指し、学生の就職に対する意識向上、学内他部署等との連携、学生のキャリア形成支援体制の充実を図りました。毎年恒例の「学内合同企業説明会」のほか、「OB企業役員による面接対策講座」など、芝浦工業大学校友会との連携も積極的に実施しました。さらに就職支援システムCASTを刷新し、学内企業説明会においての案内などにスマートデバイスを活用できる仕組みを導入するなど、より学生の利便性と活用度向上をはかる施策を実施しました。またグローバル化の一環として、留学生向けのインターンシップ講座なども実施、その結果、学部97.3%、大学院98.6%、大学全体では97.7%という高い就職率を達成しました。

2017年度 就職先ランキング

1	東日本旅客鉄道(株)	33人
2	東海旅客鉄道(株)	25人
3	本田技研工業(株)	24人
4	セイコーエプソン(株)	17人
	積水ハウス(株)	12人
5	戸田建設(株)	12人
	東京都庁	12人
8	三菱電機(株)	11人
	さいたま市役所	11人
10	日本電気(株)	10人



就活フェアでの企業からの説明

4. 学生支援の充実強化

■ 学生生活支援

芝浦工業大学校友会・後援会との連携による就職支援、学生課外活動支援（課外活動奨励金、クラブサークルインフォメーション作成費援助等）を実施しました。また、SGU事業として学生の海外留学への財政面を含めた支援と、TOEICスコアの向上を目指し、TOEIC-IPテストの受験料補助、TOEIC対策講座を実施するなど学生の英語力強化の支援を行いました。

■ 課外活動支援

課外活動支援として、2017（平成29）年度に優秀な成績・功績を残した学生団体・個人を表彰しました。

SIT特別賞

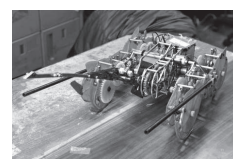
- 矢澤 健太さん（陸上競技部）
第94回箱根駅伝において関東学生連合チームとして1区（大手町～鶴見）を走破し、本学史上初の出場という快挙を達成

SIT賞

- 矢澤 健太さん（陸上競技部）
第94回箱根駅伝予選会で好成績を収め、関東学生連合チームに選出
- Team Birdman Trial
鳥人間コンテスト2017でチーム過去最高の飛行距離（6,625m）を記録
- 大武誠之さん（附属高校2年）
2017（平成29）年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）男子200m個人メドレー、男子400m個人メドレーの2冠を達成



本学史上初めて箱根駅伝に出場



ROBO-ONEに優勝したS.R.D.C.のロボット

課外活動奨励金

<団体の部>

- 男子バスケットボール部
 - ・関東理工系トーナメント 優勝
 - ・関東大学バスケットボールリーグ4部Aブロック 2位
- ソフトテニス部
 - ・関東学生春季リーグ（女子）10部優勝、9部昇格
 - ・関東学生秋季リーグ（男子）6部優勝
- ラグビー部
 - ・全国地区対抗大学ラグビー関東1区1部5位
- Formula Racing
 - ・第15回全国学生フォーミュラ大会 準優勝
- 硬式庭球部
 - ・関東理科大学連盟（男子団体）3部優勝、2部昇格
- サッカー部
 - ・TRAUM CHALLENGE FESTA 2017 in SUMMER 3位
 - ・新関東理工系リーグ 3位
 - ・埼玉県リーグ1部8位、フェアプレー賞（1部残留）
- S.R.D.C.
 - ・第31回ROBO-ONE 優勝
 - ・KHK杯2017 準優勝
- 場助っ人
 - ・大宮キャンパス内ペットボトルキャップ回収リサイクル
 - ・大宮祭「松ぼっくりツリー」作製
 - ・さいたま市「みどりの祭典」にて松ぼっくり工作体験
 - ・東日本大震災復興ボランティア活動（宮城県南三陸町）

<個人の部>

- 佐々木 駿さん【ソフトテニス部】
- 慶留間 鴻さん【ソフトテニス部】
 - ・関東学生春季選手権（男子ダブルス）優勝
 - ・関東学生春季リーグ（男子）6部全勝賞
- 高築 治憲さん【ソフトテニス部】
- 石橋 晃さん【ソフトテニス部】
 - ・関東学生春季選手権（男子ダブルス）準優勝
 - ・関東学生春季リーグ（男子）6部全勝賞
- 丹治 英莉花さん【ソフトテニス部】
 - ・関東学生春季リーグ（女子）10部全勝賞
- 辻 恵梨さん【ソフトテニス部】
 - ・関東学生春季リーグ（女子）10部全勝賞
- 青木 紗希さん【剣道部】
 - ・第51回関東理工科系学生剣道新人戦大会 女子個人戦3位
- 矢澤 健太さん【陸上競技部】
 - ・第94回箱根駅伝予選会（20km）88位（1時間1分44秒）
- 柿沼 拓実さん【硬式庭球部】
- 川口 敦大さん【硬式庭球部】
 - ・関東理科大学連盟個人トーナメント 男子ダブルス準優勝
- 福島 逸斗さん【硬式庭球部】
 - ・関東理科大学連盟新人戦トーナメント 男子シングルス優勝
- 秋澤 寛明さん【S.R.D.C.】
- 入倉 弘明さん【S.R.D.C.】
 - ・第31回ROBO-ONE 優勝チームメンバー

5. 中高大連携強化と理系女子の育成

■ 中高大連携強化

大学と併設校との連携については、2012(平成24)年度より大学教員、併設学校教員及び大学事務職員らで構成する「中高大連携推進検討委員会」を組織し、継続的に既存プログラムの見直しや新規プログラムの実施計画策定等に取り組んでいます。2017(平成29)年度は、スーパーグローバル認定校である大学と併設する各学校がグローバル人材育成を主眼とした大学先取り授業や、大学推薦内定者に対する外部講師によるTOEIC指導などを実施しました。各校の取り組みとして、附属中学高校では2017(平成29)年度より高校入学生に対して大学教授の指導の下ロボット製作などを行うものづくり授業「Arts & Tech」を実施しました。また柏中学高校では、中等教育段階からの科学技術人材育成プログラム開発校(文部科学省スーパーサイエンスハイスクール指定校)であった2004(平成16)年度から2008(平成20)年度までに築き上げた取り組みに、法人・大学の協力を得て国際的科学技術人材育成プログラムを織り込んだ計画を立案、2018(平成30)年度からの再指定を目指し、準備を進めました。

■ 理系女子の育成

首都圏の女子校を中心とした学校訪問を拡大し展開しているほか、さいたま市男女共同参画センターと共同開催(大宮キャンパス)、港区立男女平等参画センターの協力(芝浦キャンパス)で、近隣の女子中学生にロボットの組み立てとプログラミングを指導する講座を開講し、芝浦工業大学の男女共同参画推進室が実施する「工学女子を育てよう!プロジェクト」において本学の女子学生が講師役を務めました。また、株式会社ブリヂストン、日本IBM株式会社において、中高大生を対象とした女子学生企業見学会(お茶の水大学、NIMS連携)を併設校と連携で実施しました。

6. キャンパス施設整備計画

■ 工事

大宮キャンパスでは、2016(平成28)年度に新設した正門から生協前までのアスファルト舗装のリニューアル、総合グラウンド電光掲示板設備をはじめ、要望の多かった弓道場トイレや体育館女子トイレおよび更衣室を改修しました。

豊洲キャンパスでは、2014(平成26)年度から4年計画で実施していた全ての空調屋外機の更新を完了させ、さらに地下の地域冷暖房設備の補修を行うなど、経年による劣化の改善を重点的に実施しました。

柏中学高校でも30年を経過した校舎地下での配管腐食の対策を実施。照度不足が訴えられていた第一グラウンドの夜間照明をリニューアルしました。

今後も各キャンパスにおいて経年劣化対応が次々課題となることが予想されており、計画的な対策を検討します。

なお、豊洲、大宮の両大学キャンパスでは、2018(平成30)年度に行う多数の外国人教員の雇用に備える教員室への変更、また大学院生スペース不足解消を含む機能変更リニューアル工事を実施しました。

■ 計画

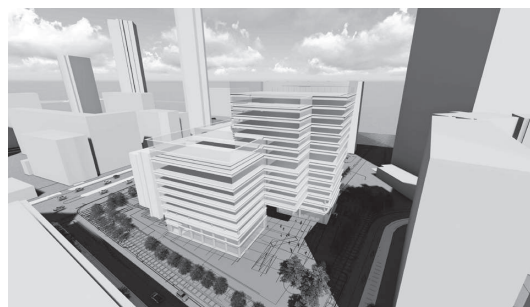
豊洲第二校舎計画に向け、仕様の検討に着手しました。建設コストへの影響のみならず、その後の維持管理にも配慮した計画とすべく、建設事務局と協働しています。

■ 安全

施設課では廃液回収や保健所、消防への届出等、安全管理に関わる業務がありますが、大学教員も交えた協働にて安全管理ミーティングを実施しました。その成果として、今までは印刷冊子で配布していた「安全の手引き」を、工業大学にふさわしい実験や演習時にも役立つ内容に大幅刷新し2017(平成29)年度末web上にアップしました。



第二校舎イメージパース 研究棟大階段より



第二校舎イメージパース 南側からの俯瞰

7. 附属・併設校強化

■ 芝浦工業大学附属中学高等学校

新入生全員がタブレット型端末を所有し、全館Wi-Fi・全教室プロジェクターのICT環境を活用するアクティブラーニングを実践しました。女子生徒を含む高校入学生に対しては、高度な高大連携プログラムを実践しました。また株式会社エスアイテックからの支援をもとに、セブ市(フィリピン)にて芝浦工業大学推薦決定者のうち希望者12名が2週間のプログラミングと英会話の研修を受けました。

■ 芝浦工業大学柏中学高等学校

次期学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」に向け、生徒・教員双方がその程度を客観的に評価できる基準表(SK学習ルーブリック)の積極活用に取り組み始め、また、高等学校におけるコース制、中学校における特進クラス(グローバル・サイエンスクラス)設置による効率的学習・進路指導を継続してきました。そして、これら日々の実践によって深化させてきた科学技術人材育成に向けての取り組み(シバウラ・サイエンスクラス等)をさらにレベルアップさせるべく、2度目のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定を目指して申請し、3月27日に指定が決定しました。2018(平成30)年度以降、進学実績向上に努めることはもとより、芝浦工業大学の協力も仰ぎつつ、スーパーサイエンスハイスクール指定校として再始動します。また、学校広報にも力を入れ、「Web first」広報を念頭に置き、ウェブサイトの整備と充実を進めました。

8. 地域貢献・社会貢献

■ COC事業を軸とした地域貢献

2013(平成25)年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」は最終年度の5年目を終わりました。本学の特色である「地域志向科目の必修化」と、実際に地域課題の取り組みを行う「COCプロジェクト」は、事業終了後も継続予定です。地域の関係者と連携しながら、機械、建築、情報といった工学分野から地域課題の解決にアプローチし、本学ならではの地域貢献を推進します。2017(平成29)年度は、18のCOCプロジェクトが活動すると共に、地域共創シンポジウムやCOC学生成果報告会などで、成果を地域に還元し、地域との交流を推進しました。

■ 生涯学習講座

大学の「知」を社会に還元するとともに、子どもたちの理科に対する興味喚起を促進するため生涯学習公開講座を実施しています。2017(平成29)年度は、一般向け公開講座(オープンテクノカレッジ)には1,241人、子ども向けの公開講座(オープンテクノキッズ)には487人、ロボットセミナーには2,445人の参加がありました。魅力ある講座づくり、情報発信に取り組んだ結果、全体で過去最高の8,000人以上の講座への応募がありました。特に子ども向け講座は定員の15倍もの応募があった講座もあり、高い評価を得ています。

Ⅲ. 財務の概要

2017(平成29)年度 決算の概要

1. 学校法人会計の特徴と企業会計との相違

学校法人は、教育・研究を通じて有為な人材を育成、輩出し、教育・研究活動で得られた成果を社会に還元することを目的としています。収入の大部分を学費と国及び地方自治体からの補助金が占めており、収入がある程度予め固定されているため、支出の増加に際し、短期間で支出に見合う収入の増加を図ることが難しく、運営には予算制度に基づく長期的な財政計画が必要です。学校会計は、このような特性を踏まえて、教育・研究活動を継続的に行うための校地、校舎等基本財産の取得状況や長期にわたる収支の均衡の状況を確認できるよう構成されています。

一方で、企業は利潤の追求を主な目的としており、企業会計は収益と費用から当該事業の状況を明らかにし、経営成績を判断するべく構成されています。

2. 学校法人会計基準

国または地方公共団体から経常費補助金の交付を受けている学校法人は、文部科学大臣の定める会計処理基準(学校法人会計基準)に従い計算書類を作成することが義務付けられており(私立学校振興助成法第14条)、本学もこれに従い計算書類を作成しています。

3. 2017(平成29)年度 決算の概要

2017(平成29)年度の資金収支の規模は355億円となりました。収入面では、旧板橋校地並びに葉山セミナーハウスの売却による収入や、2018(平成30)年度入試において入学志願者数が前年度比増加したことで入学検定料収入が予算比5千万円増となったほか、受託研究契約件数の増加に伴う受託事業収入の増額により、付随事業・収益事業収入が予算比1億5千万円増の7億4千万円となりました。また退職者数の増加に伴う私学退職金団体交付金収入の増額などにより、雑収入が予算比1億1千万円増の6億円を計上しました。

支出面では、受託研究費で購入した機器備品の設備関係支出への振替や、各キャンパスにおける施設維持管理費の見直し削減、また光熱水費の節約などに伴い、教育研究経費支出が予算比6億8千万円減の55億5千万円に、管理経費が予算比8千万円減の14億3千万円となりました。

以上収支の結果、翌年度繰越支払資金が予算比で13億4千万円の増加となり、将来に向けた一定の備えを確保することができました。

事業活動収支に関しては、収入の増加と同時に教育研究経費の支出が抑えられたことにより、教育活動収支差額が予算比12億2千万円増加の18億8千万円となりました。教育活動外収支差額(受取/支払利息の収支)は、運用利息収入が予想より増加し、予算比1千万円の改善となりました。特別収支については、旧板橋校地並びに葉山セミナーハウスの売却により、33億9千万円の収入超過となりました。以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は、予算比11億9千万円増加の52億5千万円(昨年度比35億3千万円増)となりました。

資産・負債に関しては、旧板橋校地並びに葉山セミナーハウスの売却により、有形固定資産が前年度末比で減少した一方で、売却代金の資産組入れに伴い、特定資産(引当資産)が前年度末比53億3千万円増の387億6千万円に、流動資産が前年度末比9億1千万円増の77億3千万円となりました。

負債の部については、借入金残高の減少などにより前年度末比37億8千万円減の157億2千万円となっています。純資産については、基本金及び翌年度繰越収支差額が合計され、前年度比52億5千万円増加し983億円となり、資産総額は前年度末比14億6千万円増の1,140億2千万円となりました。

以上

資金収支計算書

当該年度に行なった諸活動に対応する全ての収入と支出の内容、支払資金の収入・支出を明らかにしています。

(単位：百万円)

科目	① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算
学生生徒等納付金収入 ①	15,033	14,986	47	14,415
手数料収入 ①	1,066	1,118	△ 52	1,066
寄付金収入 ①	413	413	0	321
補助金収入 ①	2,177	2,325	△ 148	2,321
資産売却収入	6,115	6,315	△ 200	1
付随事業・収益事業収入 ②	585	738	△ 153	720
受取利息・配当金収入 ②	75	85	△ 10	105
雑収入	496	603	△ 107	675
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	2,791	2,974	△ 183	3,052
その他の収入	2,165	3,485	△ 1,320	4,889
資金収入調整勘定	△ 3,765	△ 3,946	181	△ 3,157
前年度繰越支払資金	6,354	6,354	0	7,038
収入の部合計	33,505	35,450	△ 1,945	31,446

科目	① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算
人件費支出	8,434	8,436	△ 2	8,416
教育研究経費支出 ③	6,227	5,551	676	5,277
管理経費支出 ③	1,516	1,435	81	1,586
借入金等利息支出	99	99	0	114
借入金等返済支出	3,127	3,127	0	627
施設関係支出 ④	626	605	21	3,946
設備関係支出 ④	523	520	3	1,318
資産運用支出	6,728	8,116	△ 1,388	3,561
その他の支出	583	603	△ 20	620
資金支出調整勘定	△ 385	△ 405	20	△ 373
翌年度繰越支払資金	6,027	7,364	△ 1,337	6,354
支出の部合計	33,505	35,450	△ 1,945	31,446

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

POINT 1

学生生徒等納付金収入：授業料、実験実習料などの、いわゆる学費です。学生生徒数約11,200人分。

手数料収入：入学検定料や各種証明書手数料等の収入です。志願者数の増加を反映し、予算比増加となりました。

寄付金収入：内訳①100周年事業：89百万円、②新豊洲開校：40百万円、③教育研究環境整備：17百万円、④研究奨励寄付：98百万円、⑤その他使途特定寄付：169百万円。

補助金収入：国や地方自治体等から本学が受ける各種補助金です。国庫補助金収入が中心となっています。国庫補助金収入には、スーパーグローバル大学創成支援事業83百万円、地(知)の拠点整備事業20百万円、大学改革推進等補助金15百万円等が含まれています。

POINT 2

付随事業・収益事業収入：学生寮や学バス等、教育研究活動に付随する事業や、受託研究事業、本学の公開講座受講料等に関する収入です。このうち受託事業収入は、契約件数の増加により、予算比147百万円の増加となっています。

受取利息・配当金収入：奨学基金等の引当特定資産に係る運用果実です。

POINT 3

教育研究経費支出、管理経費支出：教育研究経費には、学科等に直接配分される教育研究経費だけでなく、大学事務部門が所管する各種教育事業経費や、施設設備やIT環境の維持に係る保守清掃費、光熱水費、あるいは修繕工事費などが含まれています。一方、管理経費とは、理事会や間接部門(総務部、財務部など)の業務経費等を指します。

POINT 4

施設関係支出：土地や建物等に関係した支出です。主なものは以下のとおりです。

①大宮・総合グラウンド整備工事429百万円

設備関係支出：什器や機器備品類関係の支出です。主なものは以下のとおりです。

①大宮・コアルター機器更新78百万円

②教室AV関連システム更新48百万円

事業活動収支計算書

当該年度の教育活動収支、教育活動外収支、特別収支に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容、及び基本金組み入れ後の収支の均衡の状態を明らかにしています。

(単位：百万円)

科目		① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	15,033	14,986	47	14,415	
		手数料	1,066	1,118	△ 52	1,066	
		寄付金 ⑤	303	312	△ 9	277	
		経常費等補助金	2,177	2,325	△ 148	2,283	
		付随事業収入	585	738	△ 153	720	
		雑収入	496	603	△ 107	675	
		教育活動収入計	19,659	20,082	△ 423	19,436	
	事業活動支出の部	人件費 ⑥	8,479	8,419	60	8,346	
		教育研究経費 ⑥	8,907	8,211	696	7,753	
		管理経費 ⑥	1,621	1,541	80	1,692	
		徴収不能額等	0	36	△ 36	34	
		教育活動支出計	19,008	18,207	801	17,825	
	教育活動収支差額		652	1,875	△ 1,223	1,611	
	教育活動外収支	収事業活動の部	受取利息・配当金	75	85	△ 10	105
その他の教育活動外収入			0	0	0	0	
教育活動外収入計			75	85	△ 10	105	
支事業活動の部		借入金等利息	99	99	0	114	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	
		教育活動外支出計	99	99	0	114	
教育活動外収支差額		△ 24	△ 15	△ 9	△ 9		
経常収支差額		628	1,860	△ 1,232	1,602		
特別収支		収事業活動の部	資産売却差額	4,502	4,666	△ 164	0
			その他の特別収入 ⑤	135	180	△ 45	206
	特別収入計		4,637	4,846	△ 209	206	
	支事業活動の部	資産処分差額 ⑥	1,203	1,457	△ 254	90	
		その他の特別支出	0	0	0	0	
		特別支出計	1,203	1,457	△ 254	90	
	特別収支差額		3,434	3,389	45	116	
	基本金組入前当年度収支差額		4,061	5,249	△ 1,188	1,718	
	基本金組入額合計 ⑤		△ 4,697	△ 4,821	124	△ 4,490	
	当年度収支差額 ⑦		△ 636	428	△ 1,064	△ 2,772	
前年度繰越収支差額		△ 4,990	△ 4,990	0	△ 2,224		
基本金取崩額		4,429	3,368	1,061	6		
翌年度繰越収支差額 ⑦		△ 1,197	△ 1,193	△ 4	△ 4,990		
(参考)							
事業活動収入計		24,371	25,013	△ 642	19,746		
事業活動支出計		20,310	19,763	547	18,029		

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

POINT ⑤

寄付金：特別寄付金に加え、現物寄付を計上しています。なお、施設設備系の寄付は、特別収支のその他の特別収入に計上されています。

基本金組入額：内訳は以下のとおりです。

- ①第1号基本金組入額：▲4,020百万円
施設設備取得に係る組入額890百万円、過年度取得資産に係る借入返済に伴う組入額3,127百万円、ファイナンス・リースの当年度支払額3百万円を組入れました。
- ②第2号基本金組入額：▲800百万円
先行組入れとして、100周年記念事業資金(16年計画の7年目)800百万円を組入れました。
- ③第3号基本金組入額：▲0.3百万円
各種奨学事業経費、顕彰事業経費の残額、及び同事業への寄付金を組入れています。

POINT ⑥

人件費：退職給与引当金の繰入不足額なども計上されています。

教育研究経費、管理経費：資金収支計算書の教育研究経費支出、管理経費支出に、減価償却額(各2,651百万円、104百万円)等が計上されています。

その他の支出(資産処分差額)：既存の建物・構築物、機器等の除却処理を中心に以下のとおり計上しました。

- ①有価証券処分差額 274百万円
②建物構築物廃棄差額 1,045百万円
③機器備品廃棄差額 71百万円
④図書廃棄差額 66百万円 等を計上

POINT ⑦

当年度収支差額：主に教育活動支出が予算比計約8億円の圧縮となったことにより、予算比1,064百万円の改善となりました。

翌年度繰越収支差額：＝当年度収支差額＋前年度繰越収支差額＋基本金取崩額

貸借対照表

当該年度(2017(平成29)年度)末時点の資産・負債・正味財産を把握し、財政状態を表しています。

資産の部

(単位：百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	106,293	105,742	551
有形固定資産 ①	65,172	69,623	△ 4,451
土地	18,580	20,288	△ 1,708
建物	38,182	40,879	△ 2,697
構築物	2,326	1,893	433
教育研究用機器備品	4,652	4,950	△ 298
管理用機器備品	106	122	△ 16
図書	1,279	1,304	△ 25
車両	7	5	2
建設仮勘定 ①	40	182	△ 142
特定資産 ②	38,756	33,425	5,331
第2号基本金引当特定資産	3,350	2,550	800
第3号基本金引当特定資産	4,438	4,437	1
施設設備引当特定資産	2,676	2,581	95
退職給与引当特定資産	2,298	2,298	0
減価償却引当特定資産	15,525	15,348	177
借入金返済引当特定資産	4,262	740	3,522
教育研究環境整備引当特定資産	158	151	7
研究助成引当特定資産	2,498	2,379	119
大学院建設系社会人学生 特別給付奨学金引当特定資産	55	55	0
創立80周年記念事業引当特定資産	279	279	0
将来計画資金引当特定資産	3,217	2,606	611
三浦賞基金引当特定資産	1	1	0
その他の固定資産	2,365	2,694	△ 329
電話加入権	8	8	0
施設利用権	17	19	△ 2
有価証券	6	6	0
敷金及び保証金	24	28	△ 4
長期貸付金	2,227	2,581	△ 354
長期前払金	84	53	31
流動資産	7,725	6,811	914
現金預金	7,364	6,354	1,010
未収入金	265	365	△ 100
立替金	18	2	16
前払金	78	90	△ 12
資産の部合計	114,019	112,554	1,465

POINT ①

有形固定資産：当年度の増減要因は下記のとおりです。

①増加要因:教育研究用機器備品取得(479百万円)、大宮キャンパス総合グラウンド整備(391百万円)、柏中高グラウンド照明設備増設(24百万円)、大宮キャンパス体育館・弓道場・アーチェリー場トイレ新設工事(17百万円)、大宮6号館高速VAV更新工事(10百万円)他となっています。

②減少要因:旧板橋校地・葉山セミナーハウス売却や減価償却のほか、各キャンパス整備に伴う除却、機器備品の廃棄などとなっています。

建設仮勘定：当年度の状況は次のとおりです。

豊洲第2期計画建築設計監理委託業務報酬(計40百万円)

POINT ②

特定資産：減価償却引当特定資産から、各キャンパス施設設備整備費用を取崩したほか、借入金返済引当特定資産より借入金返済原資を取崩しました。一方、積立に関しては、第2号基本金引当特定資産へ800百万円、減価償却引当特定資産に1,008百万円、借入金返済引当特定資産に4,022百万円などの繰入支出を計上しました。この結果、平成29年度末現在の引当特定資産保有高は前年度末比5,331百万円の増加となりました。

貸借対照表

負債の部

(単位：百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	8,845	11,990	△ 3,145
長期借入金 ③	5,555	8,682	△ 3,127
退職給与引当金	3,290	3,306	△ 16
長期未払金	0	2	△ 2
流動負債	6,878	7,518	△ 640
短期借入金 ③	3,127	3,127	0
未払金	327	303	24
前受金	2,974	3,663	△ 689
預り金	451	425	26
負債の部合計	15,723	19,508	△ 3,785

純資産の部

科 目	本年度末	前年度末	増減
基本金 ④	99,489	98,036	1,453
第1号基本金 ④	90,531	89,879	652
第2号基本金 ④	3,350	2,550	800
第3号基本金 ④	4,438	4,437	1
第4号基本金 ④	1,170	1,170	0
繰越収支差額	△ 1,193	△ 4,990	3,797
翌年度繰越収支差額	△ 1,193	△ 4,990	3,797
純資産の部合計	98,295	93,046	5,249
負債及び純資産の部合計	114,019	112,554	1,465

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

POINT ③

長期借入金、短期借入金：当年度末の長期・短期借入金残高合計は8,682百万円となっており、前年度比3,127百万円の減少となりました。

POINT ④

基本金

基本金は企業会計にはない、学校会計独自の会計処理です。学校運営に必要な資産のうち、継続的に維持していくべき資産(校地・校舎・機器備品・図書・現金・預金)の額を表したものを「基本金」といい、毎年一定額を組み入れます。また学校法人会計基準第30条第一項において基本金は4つに分類されています。

基本金の種類	目的
第1号基本金	自己資金で取得した校地・校舎、機器備品などの取得額
第2号基本金	固定資産を将来取得するために積み立てた預金などの資産の額
第3号基本金	奨学基金、研究基金などの資産の額
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額

第1号基本金：当期自己資金による固定資産取得高(当年度借入金返済高、建設仮勘定からの振替、及び過年度未払金の支払額を含む)から、基本金取崩額を差引いた結果、前年度末比652百万円の増加となりました。

第2号基本金：100周年記念事業資金800百万円を組入れました。

第3号基本金：各種奨学事業経費、顕彰事業経費の残額、及び同事業への寄付金を組入れた結果、前年度末比0.3百万円の増加となっています。

第4号基本金：基準に基づき組入れましたは取崩し額が算出されており、今年度について増減はありませんでした。

学校別 事業活動収支内訳表

(単位：百万円)

科目		学校						総計	
		法人	大学	柏高校	附属 高等学校	柏中学	附属 中学校		
教育 活動 収支	事業 収入 の 活動 部	学生生徒等納付金	0	13,153	598	441	409	385	14,986
		手数料	0	1,039	20	4	33	22	1,118
		寄付金	0	271	13	9	12	7	312
		経常費等補助金	0	1,461	299	237	170	158	2,325
		付随事業収入	0	676	30	0	32	0	738
		雑収入	156	297	9	52	60	30	603
		教育活動収入計	156	16,896	967	743	716	604	20,082
	事業 支出 の 活動 部	人件費	310	6,289	569	504	391	356	8,419
		教育研究経費	0	7,271	231	306	139	263	8,211
		管理経費	205	1,086	89	47	64	51	1,541
		徴収不能額等	0	36	0	0	0	0	36
		教育活動支出計	515	14,682	888	857	594	671	18,207
	教育活動収支差額		△ 359	2,214	80	△ 113	122	△ 67	1,875
	科目		法人	大学	柏高校	附属 高等学校	柏中学	附属 中学校	総計
教育 活 動 外 収 支	事業 収入 の 活動 部	受取利息・配当金	13	64	4	0	2	0	85
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	13	64	4	0	2	0	85
	事業 支出 の 活動 部	借入金等利息	0	67	0	17	0	14	99
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	67	0	17	0	14	99
	教育活動外収支差額		13	△ 3	4	△ 17	2	△ 14	△ 15
	経常収支差額		△ 346	2,211	84	△ 130	123	△ 82	1,861
	科目		法人	大学	柏高校	附属 高等学校	柏中学	附属 中学校	総計
	特 別 収 支	事業 収入 の 活動 部	資産売却差額	59	85	9	2,250	0	2,264
その他の特別収入			0	145	6	15	2	12	180
特別収入計			59	230	14	2,265	2	2,276	4,846
事業 支出 の 活動 部		資産処分差額	274	174	13	631	1	364	1,457
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	0	0
		特別支出計	274	174	13	631	1	364	1,457
特別収支差額		△ 215	56	1	1,634	1	1,912	3,389	
基本金組入前当年度収支差額		△ 561	2,267	85	1,504	124	1,830	5,250	
基本金組入額合計		△ 800	△ 1,329	△ 39	△ 1,377	△ 37	△ 1,239	△ 4,821	
当年度収支差額		△ 1,361	938	47	127	87	591	429	
(参考)									
事業活動収入計		228	17,191	986	3,009	719	2,880	25,013	
事業活動支出計		789	14,923	901	1,505	595	1,050	19,763	

(注) 表中の数字が四捨五入されているため、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

経年比較 資金収支計算書

(単位：百万円)

区 分		2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	14,291	14,485	14,412	14,415	14,986
	手数料収入	1,067	1,096	1,014	1,066	1,118
	寄付金収入	306	367	316	321	413
	補助金収入	2,469	2,464	2,368	2,321	2,325
	資産売却収入	0	0	0	1	6,315
	付随事業・収益事業収入	579	599	752	720	738
	受取利息・配当金収入	512	411	187	105	85
	雑収入	562	596	542	675	603
	借入金等収入	0	1,000	1,000	0	0
	前受金収入	2,648	3,226	2,756	3,052	2,974
	その他の収入	3,157	6,471	7,282	4,889	3,485
	資金収入調整勘定	△ 3,086	△ 3,126	△ 3,054	△ 3,157	△ 3,946
	前年度繰越支払資金	4,539	4,970	6,525	7,038	6,354
収入の部合計	27,044	32,559	34,100	31,446	35,450	
支 出 の 部	人件費支出	8,028	8,201	8,250	8,416	8,436
	教育研究経費支出	5,307	5,414	5,443	5,277	5,551
	管理経費支出	1,374	1,390	1,540	1,586	1,435
	借入金等利息支出	145	135	127	114	99
	借入金等返済支出	516	516	627	627	3,127
	施設関係支出	1,192	2,595	2,549	3,946	605
	設備関係支出	601	557	574	1,318	520
	資産運用支出	4,391	6,904	7,596	3,561	8,116
	その他の支出	828	663	681	620	603
	資金支出調整勘定	△ 308	△ 341	△ 325	△ 373	△ 405
	翌年度繰越支払資金	4,970	6,525	7,038	6,354	7,364
支出の部合計	27,044	32,559	34,100	31,446	35,450	

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

経年比較 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科 目		2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)	
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	14,291	14,485	14,412	14,415	14,986
		手数料	1,067	1,096	1,014	1,066	1,118
		寄付金	294	366	304	277	312
		経常費等補助金	2,433	2,319	2,285	2,283	2,325
		付随事業収入	579	599	752	720	738
		雑収入	562	596	542	675	603
		教育活動収入計	19,226	19,461	19,309	19,436	20,082
	事業支出の部	人件費	7,951	8,250	8,114	8,346	8,419
		教育研究経費	7,805	7,885	7,864	7,753	8,211
		管理経費	1,497	1,495	1,658	1,692	1,541
		徴収不能額等	23	50	23	34	36
		教育活動支出計	17,276	17,680	17,660	17,825	18,207
教育活動収支差額		1,950	1,781	1,649	1,611	1,875	
科 目		2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)	
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	512	411	187	105	85
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	512	411	187	105	85
	事業支出の部	借入金等利息	145	135	127	114	99
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	145	135	127	114	99
教育活動外収支差額		367	276	60	△ 9	△ 15	
経常収支差額		2,317	2,057	1,709	1,602	1,860	
科 目		2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)	
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	21	1,041	910	0	4,666
		その他の特別収入	181	234	184	0	180
		特別収入計	202	1,275	1,093	206	4,846
	事業支出の部	資産処分差額	95	135	156	90	1,457
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	95	135	156	90	1,457
特別収支差額		107	1,140	938	116	3,389	
基本金組入前当年度収支差額		2,424	3,197	2,646	1,718	5,249	
基本金組入額合計		△ 3,141	△ 3,066	△ 3,392	△ 4,490	△ 4,821	
当年度収支差額		△ 717	131	△ 746	△ 2,772	428	
(参考)							
事業活動収入計		19,940	21,147	20,589	19,746	25,013	
事業活動支出計		14,517	17,950	17,943	18,029	19,763	

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

経年比較 貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)
固定資産	98,288	101,125	103,689	105,742	106,293
流動資産	5,552	7,031	7,530	6,811	7,725
資産の部合計	103,840	108,156	111,219	112,554	114,019
固定負債	14,537	14,955	15,190	11,990	8,845
流動負債	3,819	4,519	4,701	7,518	6,879
負債の部合計	18,356	19,474	19,891	19,508	15,723
基本金	87,168	90,224	93,552	98,036	99,489
繰越収支差額	△ 1,684	△ 1,543	△ 2,224	△ 4,990	△ 1,193
純資産の部合計	85,484	88,681	91,328	93,046	98,295
負債及び純資産の部合計	103,840	108,156	111,219	112,554	114,019

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

経年比較 主な財務比率

(単位：%)

比率名		2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/ 事業活動収入	12.2	15.1	12.9	8.7	21.0
基本金組入後収支比率	事業活動支出/ (事業活動収入－基本金組入額)	104.3	99.3	104.3	118.2	97.9
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/ (教育活動収入計＋教育活動外収入計)	72.4	72.9	73.9	73.8	74.3
人件費比率	人件費/ (教育活動収入計＋教育活動外収入計)	40.3	41.5	41.6	42.7	41.7
教育研究経費比率	教育研究経費/ (教育活動収入計＋教育活動外収入計)	39.5	39.7	40.3	39.7	40.7
管理経費比率	管理経費/ (教育活動収入計＋教育活動外収入計)	7.6	7.5	8.5	8.7	7.6
流動比率	流動資産／流動負債	145.4	155.6	160.2	90.6	112.3
負債比率	総負債／純資産	21.5	22.0	21.8	21.0	16.0
純資産構成比率	純資産／(負債＋純資産)	82.3	82.0	82.1	82.7	86.2
基本金比率	基本金／基本金要組入額	88.0	88.0	88.0	89.0	91.8

その他

有価証券の状況 (2018(平成30)年3月31日現在)

(単位:百万円)

区分	帳簿価格	時価	表示科目
株式(㈱エスアイテック)※	6	6	第3号基本金、施設設備、減価償却、 研究助成、将来計画資金の各引当特定資産
種類株式	180	184	
国債	1,412	1,656	
地方債	400	411	
事業債	500	513	
サムライ債・ユーロ円債	300	307	
外債	834	910	
MTN(仕組債)	100	100	
投資信託	135	125	
計	3,867	4,212	

※「株式」は、本学出資会社㈱エスアイテックに係るものであり、資金運用を目的に保有するものではありません。

借入金の状況 (2018(平成30)年3月31日現在)

(単位:百万円)

借入先	借入残高	利率	返済期限	用途等
日本私立学校振興・共済事業団	3,516	1.70 ~ 2.20%	2025年3月	校舎取得、整備資金
みずほ銀行	2,283	0.21 ~ 1.42%	2033年3月	土地取得、校舎取得整備
三井住友銀行	2,283	0.21 ~ 1.42%	2033年3月	土地取得、校舎取得整備
三菱東京UFJ銀行	600	0.08%	2019年4月	校舎取得整備
計	8,682			

寄付金の状況

(単位:百万円)

区分	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)
特別寄付金	307	367	316	321	413
周年記念事業寄付	1	0	0	25	89
研究奨励寄付	57	78	81	92	98
上記以外の用途特定寄付	249	289	235	204	226
現物寄付	134	87	88	123	79
計	441	454	404	444	492

大学教育改革支援経費等の受入状況

(単位：百万円)

区分		取組名称	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)
地域イノベーション戦略支援プログラム(研究機能・産業集積高度化地域)	件数	首都圏スマートQOL (Quality of Life)	1 ^{※1}				
	金額	技術開発地域	13	12	12		
国際化拠点整備事業費補助金 (グローバル人材育成推進事業)	件数	グローバル人材育成推進 事業(タイプB特色型)	1 ^{※2}				
	金額		87	89			
国際化拠点整備事業費補助金 (スーパーグローバル大学 創成支援)	件数	スーパーグローバル 大学創成支援(タイプB グローバル牽引型)		1 ^{※3}			
	金額			30	90	82	83
大学改革推進(産業界の ニーズに対応した教育改善)	件数	首都圏に立地する大学に おける産業界のニーズに 対応した教育改善		1 ^{※4}			
	金額		10	10			
地(知)の拠点整備事業 (大学COC事業)	件数	「まちづくり」	1 ^{※5}				
	金額	「ものづくり」を通じた 人材育成推進事業	37	53	37	24	20
科学技術人材育成	件数	女性研究者研究活動 支援事業	1 ^{※6}				
	金額		19	30	30	2	
大学等シーズ・ニーズ創出 強化支援事業	件数	イノベーション対話促進 プログラム	1				
	金額		12				
大学改革推進等補助金	件数	大学教育再生加速 プログラム		1 ^{※7}			
	金額			15	26	20	15
産学連携サービス経営人材 育成事業	件数	中小企業ものづくり サービス化のリーダーを 育成する循環型教育				1 ^{※8}	
	金額			10	8		
研究拠点形成費等補助金	件数	成長分野を支える 情報技術人材の 育成拠点の形成					1 ^{※9}
	金額						5
合計			178	239	205	136	123

※1 「首都圏スマートQOL(Quality of Life)技術開発地域」は、2011(平成23)年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。

※2 「グローバル人材育成推進事業」は、2012(平成24)年度から5ヵ年度に及ぶ採択でしたが、スーパーグローバル大学創成支援に統合されました。

※3 「スーパーグローバル大学創成支援」は、2014(平成26)年度から10ヵ年度に及ぶ採択です。

※4 「首都圏に立地する大学における産業界のニーズに対応した教育改善」は、2012(平成24)年度から3ヵ年度に及ぶ採択です。

※5 「「まちづくり」「ものづくり」を通じた人材育成推進事業」は、2013(平成25)年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。

※6 「女性研究者研究活動支援事業」は、2013(平成25)年度から3ヵ年度に及ぶ採択です。2016(平成28年度)は、連携型採択です。

※7 「大学教育再生加速プログラム」は、2014(平成26)年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。

※8 「産学連携サービス経営人材育成事業」は、単年度毎の採択です。

※9 「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」は、2017(平成29)年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。

研究費等外部資金獲得状況

<科学研究費>

(単位：百万円)

区分	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)
科学研究費(件数)	94	100	101	112	110
金額(計)	155	163	135	178	174

(注) 科学研究費は研究者等に直接交付される補助金であり、学校会計の帰属収入には含まれず、またここから支出される経費も学校会計の諸支出には含まれません。
上記は、本学教員が研究代表者となっている件数と金額(直接経費)です

<競争的資金(国プロ)>

(単位：百万円)

区分	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)
競争的資金(件数)	58	47	58	52	53
契約額(計)	320	327	494	470	249

(注) 複数年にまたがる契約は年度毎に1件として集計しています。

<受託・共同研究>

(単位：百万円)

区分	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)
受託・共同研究(件数)	184	195	239	228	277
契約額(計)	176	160	219	219	309

(注) 複数年にまたがる契約は初年度に1件として集計しています。

関連当事者等との取引の状況

会社等の名称	資本金等	出資割合	取引の内容	摘要
(株)エスアイテック	20百万円	49.50%	(支出) (注1) 物品購入、施設管理・清掃・人材派遣等業務委託、機器他リース料支払、印刷製本委託、保険料支払 (収入) 施設設備利用料他の受入	理事・職員計2名が取締役に就任している。 2017(平成29)年度取引高の合計は約1,813百万円です。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 機器備品等物品購入及びその他の取引について、本学経理規程に基づいて業者の選定及び価格を決定している。

関連する法人の概要

(2018(平成30)年3月31日現在)

会社名	株式会社エスアイテック		所在地	東京都江東区豊洲3-7-5 芝浦工業大学内	
代表者名	代表取締役 鈴見 健夫		設立年月日	1998(平成10)年6月30日	
従業員数	35人	役員数	5名(うち2名は学校法人の役員(理事)及び職員が兼務)		
定款上の目的	芝浦工業大学の教育と研究を支え発展させるため、活発に事業を行い、その利潤を学校法人芝浦工業大学に還元することを目的とする。				
事業内容	出版・翻訳・印刷業、建設業、警備・清掃・保守管理業、人材派遣業、損害保険・生命保険代理店業、リース事業、特別販売事業、イベント企画事業、その他				
学校の行う教育研究活動との関連	1) 学校法人への寄付(これまでに約9億1千9百万円の寄付を行う) 2) 学生総合保険、キャンパスライフ総合保険代理店窓口としてのサービス 3) 研究室機器、備品、事務用機器等の販売 4) 事務職員等の人材派遣				
資本金額	20百万円(202株)				
出資割合	学校法人の持株数	100株	その他の出資者の持株数 (大学後援会60株・校友会40株・持株会2株)	102株	
事業の概要 2017年6月期	売上高	当期損益	出資元学校法人への		
		(法人税等控除後)	寄付金額	家賃・地代等	配当金
	2,520百万円	25百万円	100百万円	3百万円	0円

参考 財産目録の概要 (2018(平成30)年3月31日現在)

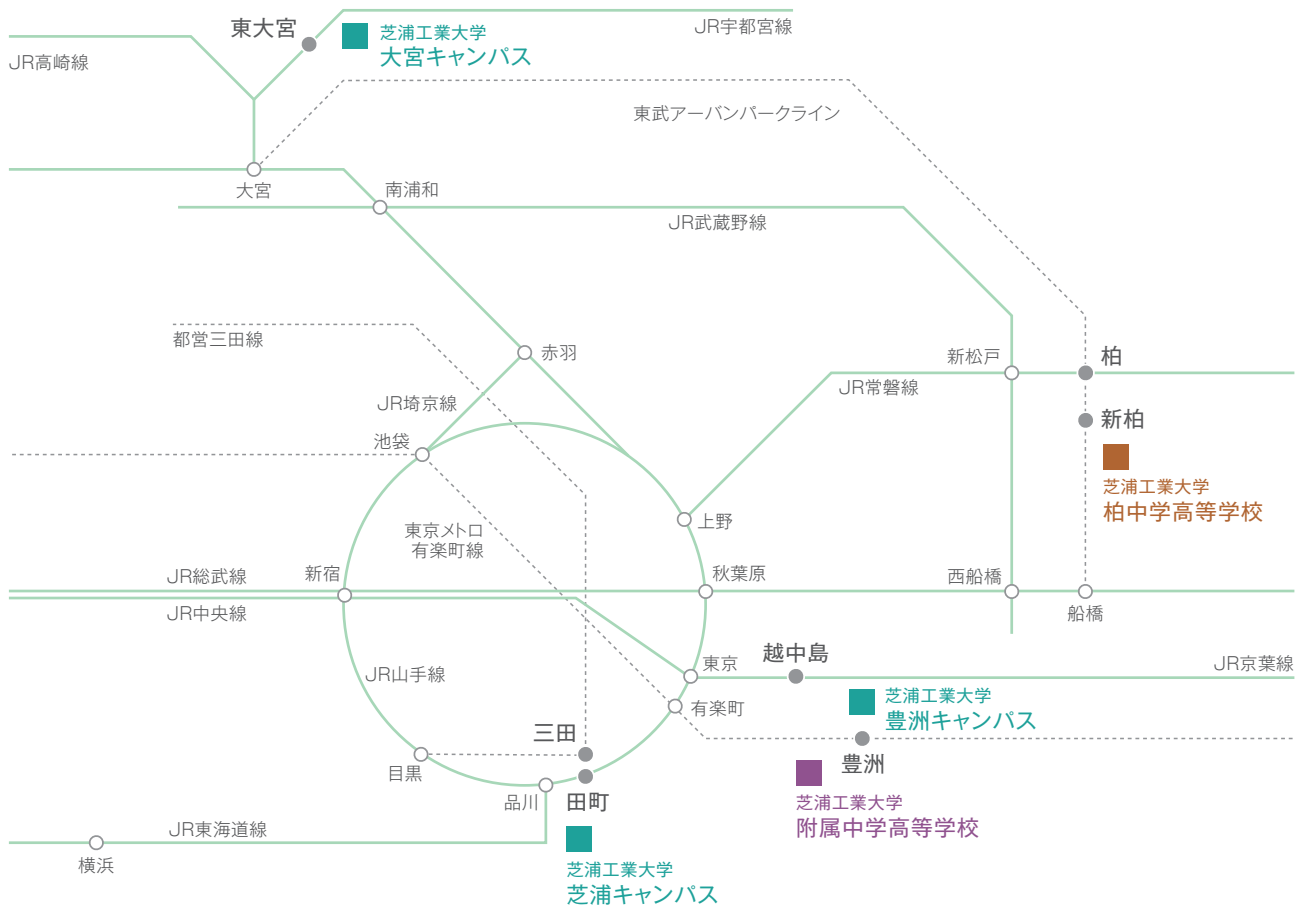
1. 財産目録(総括)					
資産総額	114,019百万円	内	基本財産	65,221百万円	
			運用財産	48,798百万円	
負債総額	15,723百万円				
正味財産	98,295百万円				
2. 資産				114,019百万円	
① 基本財産				65,221百万円	
1) 土地	地区	所在地	面積(百㎡)	価額(百万円)	
	豊洲地区	東京都江東区豊洲3丁目7番5号	300	8,821	
	大宮地区	埼玉県さいたま市見沼区大字深作307番他	1,702	1,825	
	芝浦地区	東京都港区芝浦3丁目9番14号	26	395	
	新豊洲地区	東京都江東区豊洲6丁目2番7号	170	6,228	
	柏地区	千葉県柏市増尾700番他	448	1,228	
	会津高原地区	福島県南会津郡南会津町高杖原740番	74	74	
	その他	埼玉県さいたま市西区大字ニツ宮113番1号他	2	9	
		計		2,722	18,580
2) 建物	地区	面積(百㎡)	価額(百万円)		
	豊洲地区	619	15,495		
	大宮地区	642	10,756		
	芝浦地区	125	3,551		
	新豊洲地区	180	6,075		
	柏地区	158	1,730		
	会津高原地区	40	564		
	その他	1	11		
	計	1,765	38,182		
3) 図書	種別	冊数(千冊)			価額(百万円)
		内国書	外国書	計	
	図書	251	17	268	1,174
	学術雑誌	20	18	38	105
	計	271	35	306	1,279
4) 教具・校具 及び備品	名称又は種類		数量(千点)	価額(百万円)	
	教具・校具		80	4,275	
	備品		6	482	
	計		86	4,757	
5) その他	種類	主な内容	金額(百万円)		
	構築物	各校舎の給排水施設、緑化施設など	2,326		
	車両	コートローラー、警備用巡回車両など(22台)	7		
	電話加入権	92本	8		
	施設利用権	予備電力供給施設など	17		
	敷金及び保証金	東大宮学生寮敷金など	24		
	建設仮勘定	豊洲キャンパス2期計画建築設計監理委託料	40		
	計		2,422		

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

② 運用財産		48,798百万円		
1) 預金	預金種別	価額(百万円)		
	普通預金	7,297		
	振替貯金	64		
	計	7,361		
2) 現金等	種別	金額(百万円)		
	手許現金、郵便切手	3		
	計	3		
3) 積立金	内訳	金額(百万円)	保有形態	
			種別	金額(百万円)
	第3号基本金引当特定資産	4,438	普通預金	4,138
			有価証券	300
	上記以外の特定目的引当特定資産	34,318	普通預金	30,162
		有価証券	4,156	
	計	38,756	38,756	
(注) 各引当資産の運用は、「保有形態」欄記載の金融商品によっています。				
4) 有価証券	内訳	金額(百万円)		
	「(株)エスアイテック」普通株式100株	6		
	計	6		
5) 長期貸付金	内訳	金額(百万円)		
	芝浦工業大学貸与奨学金	2,220		
	芝浦工業大学後援会貸与奨学金	92		
	徴収不能引当金など	△ 85		
	計	2,227		
6) 未収入金	内訳	金額(百万円)		
	学生生徒等納付金、国庫補助金、私学退職金団体交付金他	283		
	徴収不能引当金	△ 18		
	計	265		
7) 前払金	内訳	金額(百万円)		
	長期前払金	84		
	短期前払金	78		
	計	162		
8) 立替金	内訳	金額(百万円)		
	立替金	18		
	計	18		

3. 負債					15,723百万円
① 固定負債					8,845百万円
1) 長期借入金	種類	金額(百万円)	利率	返済期限	用途等
	日本私立学校振興・共済事業団	3,000	1.70% ~ 2.20%	2025年3月15日	校舎取得、整備資金
	市中金融機関	2,555	0.08% ~ 1.42%	2033年3月21日	校地・校舎取得、整備資金
	計	5,555			
2) 退職給与引当金	内訳				金額(百万円)
	退職給与引当金				3,290
	計				3,290
② 流動負債					6,878百万円
1) 短期借入金 (長期借入金の内1年以内の返済分)	種類	金額(百万円)	利率	用途等	
	日本私立学校振興・共済事業団	516	1.70% ~ 2.20%	校舎取得、整備資金	
	市中金融機関	2,611	0.21% ~ 1.42%	校舎取得、整備資金	
	計	3,127			
2) 前受金	内訳				金額(百万円)
	学費前受金				2,951
	学費以外の前受金				23
計				2,974	
3) 未払金	内訳				金額(百万円)
	未払金				326
計				326	
4) 預り金	内訳				金額(百万円)
	教職員関係預り金(源泉税、住民税他)				147
	学生生徒関係預り金(各種代理徴収金他)				230
	その他の預り金				74
計				451	
4. 正味財産					98,295百万円

ACCESS



芝浦工業大学
芝浦キャンパス

〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14
Tel:03-5859-7000(代表)

JR山手線・京浜東北線「田町駅」芝浦口より徒歩3分
都営地下鉄三田線・浅草線「三田駅」より徒歩5分



芝浦工業大学
豊洲キャンパス

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
Tel:03-5859-7340(代表)

東京メトロ有楽町線「豊洲駅」1cまたは3番出口より徒歩7分
JR京葉線「越中島駅」2番出口より徒歩15分



芝浦工業大学
大宮キャンパス

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307
Tel:048-683-2020(代表)

JR宇都宮線(東北本線)「東大宮駅」よりスクールバス
5分、または徒歩20分



芝浦工業大学
附属中学高等学校

〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7
Tel:03-3520-8501(代表)

東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分
新交通ゆりかもめ「新豊洲駅」より徒歩1分



芝浦工業大学
柏中学高等学校

〒277-0033 千葉県柏市増尾700
Tel:04-7174-3100(代表)

東武アーバンパークライン「新柏駅」よりスクールバス
5分、または徒歩25分
JR常磐線「柏駅」よりスクールバス・東武バス15分

<http://www.shibaura-it.ac.jp>

芝浦工業大学 検索



学校法人

芝浦工業大學

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Established 1927